

昭和十八年十二月

昭和十八年度執務報告

極祕

外務省條約局

條
119

昭和十八年度條約局第二課執務報告

目次

第一章 治外法權撤廢關係事項……………	五一頁
第二章 抽籤審檢關係事項……………	五三
第三章 敵產管理委員會……………	五四
第四章 赤十字條約實施ニ關スル諸問題……………	五六
第一節 米國關係……………	五七
第二節 英國關係……………	六〇
第三節 濠洲關係……………	六四
第四節 加奈陀關係……………	六六
第五節 赤十字國際委員會關係……………	六六
第六節 雜件……………	六七
第五章 病院船關係事項……………	六七
第一節 敵國病院船船名通告……………	六八
第二節 帝國病院船船名通告……………	六八
第三節 帝國病院船ノ標誌變更ニ關スル件……………	七三
第四節 帝國病院船ノ標誌變更ニ關スル件……………	七四

第四節 濠洲病院船「セントール」號擊沈ニ關スル件……………七六

第五節 帝國病院船ニ對スル敵國軍ノ不法攻撃及我方ノ抗議……………八〇

第六章 司法共助關係事項……………九三

第七章 國際私法關係事項……………九四

第八章 東京市債問題……………一〇三

第九章 國際機關分擔金拂込狀況……………一一二

第十章 阿片及麻藥問題……………一四

第十一章 工業所有權關係事項……………一六

第十二章 著作權問題……………一八

第十三章 文化協定實施狀況……………一九

第十四章 國際法問題……………二三

第十五章 條約局法務關係事務……………三五

第十六章 戰爭目的委員會……………三七

第十七章 國際法學會特別問題委員會……………六八

附 一 條約局第二課事務分擔表……………九二

二 條約局第二課職員異動表……………九四

昭和十八年度條約局第二課執務報告

第一章 治外法權撤廢關係事項

一、租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定ノ締結
 昭和十七年十二月十八日廟議決定ノ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ニ基キ帝國政府ハ所謂對支新政策ノ重要ナル一環トシテ租界還付及北京公使館區域移管並ニ治外法權撤廢ヲ行フコトト爲リ先ヅ昭和十八年一月九日「戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ「租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定」ノ締結ヲ見タリ當課ニ於テハ右協定ノ締結ニ當リ樞密院ニ於ケル質疑ノ參考資料ヲ作成スル等條約局第一課及大東亞省關係局課ト協力シテ所期ノ通り國內手續ヲ完了セシムルコトヲ得タリ

二、租界還付等ノ實施

對支處理根本方針ニ基ク諸施策ノ實施ニ當リテハ當初ニ於テ

第一期 昭和十八年二月十日(舊正月後)迄

第二期 同 三月三十日(國民政府還都記念日)迄

第三期 同 七月末迄

ノ三期ニ區分シ七月末迄ニハ之ヲ結實ヲ見ル如ク豫定セラレタルヲ以テ租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日華間協定ノ締結ヲ見ルヤ直ニ之ヲ實施ノ準備ニ着手スルコトト爲リタルガ當課ニ於テハ協定

四(每年五月)ヲ翻譯配布セリ

四、編纂事務

(一) 第二次歐洲戰爭ニ於ケル法令合集編纂
前年度ノ繼續シテ交戦國ニ關スルモノ第八卷第三部(英帝國關係)ヲ刊行セリ(第四部モ近ク刊行ノ豫定)

(二) 立文庫圖書
一方既刊ノ部ノ總索引ヲ編纂中ナリ尙未ダ法令合集資料保存セルニ付キ來年度モ續刊ノ豫定ナリ
多年我國ノ國際法學界ニ至大ノ貢獻ヲ爲サレタル本省屬託、東京帝國大學名譽教授立作太郎博士ハ昭和十八年五月十三日薨去セラレタル處岡博士ノ藏書(洋書約三千冊、和書約五百冊、其ノ他定期刊行物多數)ガ今般本省ニ寄贈セラレタルニ依リ目下之ヲ整理中ナリ

(三) 第二次歐洲戰爭ニ於ケル國際法律問題關係資料
前年度ニ引續キ資料蒐集中ナリ

(四) 國際法協會決議案

昭和十六年度ニ刊行セル本調書ノ續卷トシテ一九一四年以後ノ分編纂中ナリ

○國際法學會時局問題委員會關係

本委員會ガ前年ニ引續キ九回會合シ敵産管理、經濟廣域國、戰爭ノ條約ノ效力ニ及ボ、影響、最惠國條款、大東亞ニ於ケル新國家獨立ノ方式等ノ專ラ外務省側ヨリ提出セル時局關係諸問題ヲ再研究シ

第十六章 戰爭目的委員會

一、戰爭目的研究會(其ノ後戰爭目的委員會ト改稱ス)ノ設置

世界大戰ノ現狀ニ鑑ミ大東亞戰爭ニ於ケル帝國ノ戰爭目的ヲ明確ナラシメ戰爭遂行ニ資スルト共ニ戰爭終結ノ態樣ニ付遺憾ナキ檢討ヲ遂グ有ラユル事態ニ應ズル對策ヲ考究シ置クコトハ戰時外交遂行上極メス肝要ナルヲ以テ昭和十八年八月左ノ要領ヲ以テ戰爭目的研究會ヲ設置スルコトト爲レリ

(一) 差當リ山川顧問會會長トシ、松田博士、來栖大使、石射大使、通商局長、條約局長、調查局長、石澤總領事ヲ以テ委員トスル研究會ヲ構成シ條約局長ヲ右研究會ノ幹事長トシ、政務一課長、法華津書記官、調査二課長、條約二課長ヲ幹事トシ條約二課長ヲ以テ事務連絡係トス

(二) 本會ハ秘密會トシ所要ニ應ジ他局、課長其ノ他ノ協力ヲ求メ大體每週一回定日ニ會合、研究審議ヲ進スルセリトス

(三) 研究ノ結果ハ之ヲ隨時外務大臣ニ報告ス

二、「大東亞宣言」ノ研究

戰爭目的研究會ハ其ノ最初ノ研究題目ヲ「大東亞宣言」トセリ八月二十日ノ第一回幹事會コリ九月二十七口ノ本會議ニ至ル迄前後十二回ニ亘リ會合ヲ開キ「大東亞宣言」ノ構想ニ付意見ヲ交換シタリ審議ノ手續トシテハ石澤總領事、政務二課長、通商一課長ヲ加ヘテ幹事會ヲ構成シ右幹事會ニ於テ事務ノ進捗ヲ計リ一應幹事會ノ決定ヲ見タル點ヲ更ニ本會議ノ討論ニ附スルコトトセリ

「戰爭ニ勝利ヲ得ザレバ大東亞共榮圈ヲ建設スルコトハ不可能ナルコト」言フ俵タザルモ適ニ戰爭ニ於テ勝利ヲ得タリトスルモ尙爲シ得ベキ限度ハ存スル次第ニシテ從テ獨逸ヨリ輸入セラレタル廣域圈經濟理念ノ如キヲ餘リニモ強調スルコトハ禁物ナリ此ノ意味ニ於テ右ノ表現ハ「アグレッシブ」ニ過グ」トノ意見アリ

如何ナルモノガ大東亞共榮圈理念ノ最少限度ナリヤ殊ニ經濟的統制ノ最少限度如何等ハ最も活潑ナル討議ノ對象ト爲リタルガ左ノ點ニ於テハ各委員ノ意見ハ一致セリ

「國內、殊ニ産業關係者ニ於テ見ラルルガ如キ日本ノ利己主義的、自己本位の統制ヲ以テ即チ共榮圈ノ必然的體制ナリトスル思想ハ之ヲ拋棄セザルベカラズ大東亞諸國ヲ結集スル點ヨリ云ヘバ民生ノ安定ニ付テモ十分ノ考慮ヲ拂ヒ且大東亞諸國ノ有スル經濟的自主獨立、最低限ノ要求ハ之ヲ満足セシメザルモ大東亞全體例ヘバ各國共榮圈内ニ或程度ノ輕工業、雜工業ヲ認メ其ノ民生ノ希望ヲ満足セシメツツモ大東亞全體トシテハ調和アル經濟體制ヲ確立スルコト必要ナリ換言スレバ諸國ヲ植民化スルコトハ不可ナリ但シ世界經濟ニ對スル爲單一體トシテ大東亞經濟ガ計畫性ヲ有スルコトハ當然ニシテ大綱のニ指導國日本ノ統制ヲ必要トス」

茲ニ於テ「共榮圈」ノ語ハ從來ノ經緯ヨリ無用ノ誤解ヲ生ズル慮アリトシテ之ヲ避ケ統制經濟ト云ハズシテ計畫經濟ト呼ビ又統制ハ目標的ト爲シ、統制ノ運用ノ細目ニ付テハ各構成分子ノ自發性ニ委ヌベク殊ニ大東亞共榮圈資源ノ利用問題他國トノ交易問題乃至國外ヨリノ資本投下問題ニ付テモ從來ノ如キ偏狹ナル觀念ヲ捨テ「アメリカ」經濟圈、「ロシア」經濟圈ノ如キ強力ナル競爭者ノ中間ノ存在スル大東亞トシテ戰後ニ於ケル急速ナル立直リヲ行フ爲ニモ思ヒ切リテ東亞ヲ開放シ

他國トノ交易ヲ施フ限リ自由ニシテ本技術ノ導入ヲ促進スルノ含ミヲ以テ「大東亞共榮圈ノ經濟體制」**制**「**第二案**」ヲ得タル次第ナリ

以上大東亞ノ政治的、經濟的體制ニ付一應構想ヲ經メタル後、「大東亞宣言」ノ研究ヲ開始シ「大東亞宣言」案（安東幹事長立案）（別紙第六號）、「大東亞會議決議」案（尾形幹事立案）（別紙第七號）ニ出發シ「大東亞共同宣言」案「大東亞會議決議」案ニ到達シ之ヲ外務省研究室トセリ（別紙第八號）其ノ間問題ト爲リタル點左ノ如シ

(一) 「大東亞宣言」ハ政策ノ闡明ナリヤ宣傳ナリヤ

換言スレバ「大東亞宣言」ハ大東亞ノ結集ヲ主眼トスルモノナリヤ將又敵米英ニ對スル政治的攻撃ヲ主眼トスルモノナリヤ

「大東亞宣言」ハ大東亞諸國ノ結集ヲ目的トスルモノナルト同時ニ敵米英ニ對スル思想的攻撃タルベキモノナリ即チ「大東亞宣言」ノ狙フ所ハ客觀的ニ妥當公正ナル大東亞ノ内容ヲ示シ以テ敵ヲシテ其ノ交戰目的ヲ失ハシムルニ在リ宣傳的意義ヲ甚ダ重視スルモノナルガ單ナル謀略的宣傳ニ非ズ政策ト宣傳ノ兩眼目中心何レヲモ失フベカラザルガ其ノ中殊ニ對外的（即チ米英ニ對スル政治的攻撃）面ヲ重視スルモノナリトノ意見ニ一致ヲ見タリ

(二) 「大東亞宣言」ト世界トノ關係

從來「大東亞宣言」案ハ多ク大東亞ノ構成ノミヲ考慮ニ入レ右ガ世界トノ關聯ニ於テ如何ナル意義ヲ有スルヤ必ズシモ明瞭ナラザルニ鑑ミ此ノ點ノ關係ヲ如何ニスルヤ

大西洋憲章ノ如キハ世界ヲ對象トシ居リ「大東亞宣言」ガ之ニ對スル思想的反擊タル以上「大東亞

宣言」モ大東亞ト世界トノ關係、戰後ノ世界平和ニ對スル構想ヲ示スコト必要ナリ又世界各國家乃至民族ガ各國家乃至民族群ヲ形成シテ一應自給自足外部ニ對シテ、不脅威、不侵略ノ體勢ヲ作ルコトガ世界平和ノ要義タル以上單ニ大東亞ノ結集ヲ主張スルノミナラズ進ンデ米英ニ對シテモ同様に機構ヲ構成シテ以テ他國ニ對シテ干渉、壓迫、掠取ヲ行ハザル様要求スベシトノ議論一方ニ在リ他方ノ論者ハ「大東亞共榮圈」ガ先ヅ地域の平和ヲ確立スルニ於テハ總テ最終の世界平和ニ貢獻スベク其ノ意味ニ於テ大東亞ハ世界平和ニ對シ無關心ナラズ又大東亞ハ孤立、閉鎖ヲ建前トスルモノニ非ズシテ他國トノ有無相通及協力ヲ期待スルモノナルコトヲ明ニスレバ足リ他國ノ構成ニ付テ迄容喙スル必要ナシトセリ右ニ箇ノ觀點ノ對立ハ最後ニ至ル迄解消セズ結局「ドラフト」ノ問題トシ然レバベク兩者ヲ折衷調和スルコトト爲レリ

(三)

「大東亞宣言」ハ敵米英ヲ對象トシ専ラ其ノ非途ヲ糾彈スル攻撃的ノモノタルベキヤ又ハ大東亞ノ「アルベキ姿」ヲ表現スル客觀、妥當のナルモノトスベキヤ

「大東亞宣言」ガ米、英ノ非望ヲ擧ゲテ之ヲ徹底のニ非難スルコトハ戰意昂揚ノ點ヨリ一應ノ理由ハアリトスルモ米英ニ對スル政治的攻勢トシテ「大東亞宣言」ノ行ハル以上軍曹「アジア」ノ解放、大東亞民族ノ獨立ナル面ヲ強調スベク殊ニ米英ニシテ大東亞採取ノ野望ヲ捨テ所謂悔イ改メテ我ト協力スルト云フニ於テハ之ニ異議アルベカラザルヲ以テ米英イ名ヲ擧ゲテ之ヲ論難攻撃スルヨリハ大東亞共榮圈ノ理想ニ對シ障害ヲ爲スモノハ之ヲ排除スルモノナルコトヲ明ニスベシトノ意見有方ナリキ

然シテ一方ノ論者ハ米英攻撃ト大東亞建設ト二箇ノ内容ヲ一ノ「宣言」ニ盛ルヨリハ「大東亞宣

言」ト「大東亞戰爭完遂ノ決意表明」ノ二本建トシ前者ハ大東亞ノ客觀妥當性ヲ闡明スルモノトシラシメ以テ敵米英ト雖モ之ニ耳ヲ傾ケ其ノ道理ナルヲ納得セザルヲ得ザルガ如キモノトシラシメ後者ハ米英ノ非途ヲ徹底のニ糾彈シ國民ノ戰意ノ昂揚スルガ如キ長毛觀開のナルモノトスルコト效果のナリト主張セリ

之ニ對シ他方ノ論者ハ「大東亞宣言」ハ先ヅ大東亞ノ客觀妥當ナル目標ヲ示シ敵米英ガ斯ル道理ヲ蹂躪セントスルガ爲ニ戰爭ハ惹起セラレタルモノナリ故ニ今次戰爭ハ他ク迄勝手拔カザルベカラズト述ベテ始メテ宣言ノ趣旨ハ一貫シ且力強キモノト爲リ真ノ戰意昂揚ニモ實スルモノニシテ二箇ノ眼目ハ別箇ノ形式ニ盛ラルルコトナク同一ノ「宣言」中ニ繰リ込マルベシト主張シ前論、後論ニ對シ贊否交アリタルモ結局二本建ニ決定セリ

(四)

「大東亞宣言」ノ拘束力ハ「シ」リ「ガ」ル、オ「ブ」リ「ゲ」シ「ン」ナリヤ「モ」ー「ル」オ「ブ」リ「ゲ」シ「ン」ナリヤ若シ法律の拘束力ヲ有スルニ於テハ樞密院ニ御諮詢ノ要アルベシトノ議論アリタルモ「宣言」ニシテ斯ル形式ヲ採ルニ於テハ全然其ノ柔軟性ヲ喪失シ政治的宣傳トシテノ妙味ヲ失フベシトノ意見ニ依リ結局強キ「モ」ー「ル」オ「ブ」リ「ゲ」シ「ン」ヲ有スルニ止ムベシトノ結論ニ達セリ

別紙第一號

「大東亞共榮圈ノ政治體制」(第一次案)

一、共榮圈理念

大東亞其榮國思想ハ大東亞ニ於ケル各獨立國カ相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シテ而モ英米ノ政治的支配ヨリ脱却シ自存自榮ヲ圖ラントスル共通ノ意識ト地理的接近關係ヨリ生ズル親睦ノ感情トヨリシテ先ツ東亞ヲ解放シ其ノ平和安定ヲ維持確保シ更ニ東亞ノ興隆ト各國ノ共存共榮ヲ圖リ仍チ以テ世界ノ公正ナル平和ヲ招來セントスルニ至レリ

二、共榮圈ノ政治構成

(一) 構成 分子

大東亞ノ各獨立國トス、尤モ佛印等歐洲第三國ノ屬領ニ付テハ差當リ事宜ニ應シ準構成分子ノ取扱フ爲スコトアリ

(二) 各國ノ地位及相互間ノ關係

(A) 各國ハ自主獨立ノ國家トシテ國際法ノ人格ニ於テ平等ナリ

(B) 自主獨立ハ相互ニ尊重スヘキモ共榮圈ヲ構成スル意味ニ於テ前記ノ如キ共通ノ意識ト聯帶的義務觀念トヲ抱持スルコトヲ前提トス、而シテ構成論的ニハ右ノ如キ意識及觀念ヲ基底トスル國際約定ノ如キモノノ成立ヲ豫定ス

(C) 法律的不平等ナルモ事實上ノ地位及實力ニ差異アルコトハ當然ナリ然レトモ此ノ點ハ法律的法至ハ規約のニ明定セサルヲ可トス

(D) 從テ指導國ナル觀念殊ニ右觀念ヲ法の乃至ハ規約的ニ確定スルコトハ避クルモノトス

(E) 共榮圈ノ構造ハ日本ヲ軸心トシ各國ヲ圓周トスルモノナルコトハ右(D)同様之ヲ事實上ノ運用ニ俟ツニトシ法の乃至ハ規約のニ明定スルコトヲ避クルモノトス

但シ大東亞畫章又ハ大東亞規約乃至ハ大東亞會議ノ構成運用ニ當リテハ各國平等ノ要決ヲ以テ決定スル等ノ所謂國際聯盟の構成及運用モ亦當分ニテ避クルコトヲ可トス

三、共榮圈ト外部トノ關係

(一) 大東亞共榮圈外ノ世界カ所謂廣域經濟圈トシテ數個ニ分タルルヤ否ヤニ付豫斷スルコトハ之ヲ避クルヲ可トス

共榮圈ト外部トノ關係ハ從ツテ一應各地域別ニ非ザル一律ノ關係ニ於テ考慮シ置クコトトス

(二) 共榮圈ト外部即世界トノ關係ニ於テ特記スヘキ點左ノ通

(A) 共榮圈ハ政治的ニハ地理的ニ近接スル大東亞各國間ノ平和安定ノ機構ニシテ右ハ地域的部分的平和ヲ確保シ以テ世界平和安定ニ寄與セムトスル若實且現實的平和機構ノ思想ヲ表現ナルト其ニ(此ノ意味ニ於テ「モンロー」主義乃至ハ汎米思想ニ近ク國際聯盟思想ト「遠シ」)領國の排外的挑戰思想ニ出テタルモノニ非ス

(B) 共榮圈ト外部トノ政治關係ハ特定ノ共榮圈各國間ノ規約等ニ於テ明定セラレタル事項(平和安定ノ維持、防衛並共同ノ經濟建設ニ關スル特定ノ事項ニ關シ先ツ共榮圈各國間ニ於テ協議ヲ要スルモノ)ヲ除キ共榮圈ナル團體ト外部トノ關係ヲ生ズルコトナシ換言セハ共榮圈各國ト世界ノ如何ナル國ト雖モ國家間ニ於ケル適當ノ外交關係ヲ維持ス唯前記特定事項ニ付テハ共榮圈內規約ニ反セサルコトヲ要スルニ止マル

又共榮圈トシテ外部ニ對シ行動ヲ爲ス方法トシテ共榮圈ノ代表若ハ代理機關ヲ設クルコトナシ換言セハ指導國ナルモノカ國內國ニ代リ外部ト交渉シ又ハ協定スル如キハ採ラザル所トス

(C) 右ノ結果トシテ共榮國各國ハ何レモ自主的ニ外部各國ト外交使節ヲ交換シ且外交ヲ行フヲ妨ケス其ノ外交ヲ内容のニ制限スルモノハ自ラ規約ニ依リ制限スル範圍ニ止マル

四、共榮國ノ構成ト大東亞會議トノ關係

(一) 前陳共榮國ノ構想ハ之ヲ或ル程度成文化スルコトヲ便宜トスル處之カ方法トシテ考慮スヘキハ左ノ通

- (イ) 日本對各國間條約ニ依リ個別的ニ軸心ニ向ケテ構成スル方法
- (ロ) 多邊條約ニ依リ一舉ニ構成スル方法
- (ハ) 政策ノ宣言ヲ行ノ場合(共同宣言トナルカ一國ノ宣言ニ對シ他國カ賛意ヲ表明スルコトモアリ得ヘシ)

而シテ(イ)ノ方法ニ付テハ相當國內ニ異論アリ(ロ)ニ付テハ必スシモ適當ナラサルモノアル一方大東亞會議ノ開催ヲ前提トスル場合ニ於テ最モ實際的方法ハ大東亞會議ノ結果トシテノ共同宣言ニアリト判斷セララル

(二) 依テ大東亞會議ニ上提シ探擇セシムヘキ宣言案ニ於テ共榮國ノ構想ニ關シ共榮國各國ノ關係及其範圍ト外部トノ關係ニ關スル思想ヲ闡明スルコト可然、但シ非宣言ナルヲ以テ夫レ自體未タ規約の内容ト拘束力トヲ期待セリルコトヲ適當トスヘク輒ロ啓發宣傳價值ヲ重點トシテ作製スルヲ可トス

(三) 次テ大東亞會議ノ立場ヨリ検討スルニ左ノ如キ問題アリ

(A) 宣言 宣言ノ内容ハ米英擊破ニ關スル決意ヲ表明ト大東亞建設ニ關スル政策ノ闡明トノ二ツ

ノ要素ヨリ成ル之ヲ單一ノ宣言ニ盛り込ムヤ否ヤノ研究

(B) 議題 議題ニ付テハ事前協議スルヲ可トスルモ其ノ際日本側ノ提案トシテ何ヲ出スヤ又各國側ノ發言提案等ヲ相當自由ニナシタル會議トスルヤ或ハ宣言案等ヲ中心トシ具體的成果ヲ期待スル發言トナスヤノ研究

(C) 議事進行 前記(B)トモ關聯スルモ票決制度等ヲ設ケサルヲ可トスヘシ

(D) 今後ノ會議ニ關スル事項 宣言ニモ關聯スル所ナルカ大東亞會議ヲ定期若ハ隨時間催方ノ申合等並其ノ際ノ規約等ノ研究

別紙第二號

「大東亞宣言案」(經濟部門)

一、經濟的ニ安定アル國家又ハ國家群ノ形成

今次戰爭ノ英米蘭ノ經濟壓迫ニ對抗シ自存自衛ノ爲ノモノナリ

世界ノ平和ハ經濟的ニ安定アル國家又ハ國家群ヲ形成單位トセサル限り所期シ難シ

近代經濟生活ノ發達ト複雜化、近代戰爭ノ消耗性ト多樣性、合衆國、「ソ聯」二大國家ノ間ニ介在スル事實等ハ東亞諸國家カ一經濟單位ヲ結成スルヲ餘儀ナクヒシム

國內各國ハ獨立、平等、互助ノ大原則ニ基キ安定アル國家群ヲ結成ニ一致協力ス

東亞諸國家ハ經濟的安定感ノ許ス限り國內資源ヲ獨占スルノ意思ヲ有セズ

二、搾取ナキ世界ノ實現

今次戰爭ハ東亞民族ヲ搾取コリ解放スル爲ノ戰ナリ
 英米蘭カ東亞民族ノ搾取ニヨリ太リ且其ノ狀態ヲ維持セントセルコトカ今次戰爭ノ根本原因ナリ
 東亞諸國家ハ他國家又ハ他民族ヲ搾取スルノ意思ヲ有セス

三、生活水準ノ向上

東亞民族ノ生活水準ハ不當ニ低位ニアリ

東亞民族ノ生活水準ヲ引揚ケ各國各民族ヲシテ各々其ノ分ニ應ジタル生活ニ安ンセシムルコト今次
 戰爭目的ノ一タリ

四、世界永遠ノ平和ノ招來

前記三條件ヲ達成スルコトニヨリ永遠ノ平和カ保障セララルル世界ヲ作り上クルコトカ東亞諸國家ノ
 戰爭目的タリ

前記一乃至三ノ條件ハ現實ノ事實ノ形ニ於テ満足セラレザルヘカラス、斯ル本質的條件ニ付テノ國
 際法又ハ條約ノ保障ハ意味ヲナサス

斯ル世界ニ於テハ經濟ノ各分野ニ於テ自由平等ト互惠ノ原則カ其ノ眞ノ意味ニ於テ適用セララルヘ
 ク資源ノ開放、貿易ノ自由、條約ノ神聖等ノ標語モ始メテ空念佛タラサルヘシ

別紙第二號

「大東亞共榮圈ノ經濟體制」(第一次案)

一、大東亞共榮圈ノ經濟の本質

(一) 大東亞共榮圈トハ之ヲ目的のニ見レハ國家生活ノ安全確保ヲ直接ノ共同目的トシ、延イテハ
 世界全局ニ類似ノ態形ノ國家又ハ國家群ヲ構成スルコトニ依リ世界永遠ノ平和ヲ招來スルコトヲ
 終局ノ目標トスル大東亞諸國ノ協力體制ナリ

(二) 大東亞共榮圈トハ之ヲ發生的ニ見レハ英、米、蘭ノ經濟的壓迫ニ對抗シ及其ノ搾取ヨリ離脱セ
 シトスル大東亞諸國ノ自衛的結集體制ナリ

(三) 大東亞共榮圈トハ之ヲ世界經濟進步ノ過程ヨリ見ルトキハ近代經濟生活ノ發達ト複雑化、殊ニ
 近代戰爭ノ消耗性ト多種性等ノ要求ヨリ來レル必然的ナル結集體制ナリ

(四) 大東亞共榮圈トハ之ヲ構成的ニ見レハ共同目的ノ下ニ結集セル獨立經濟單位ノ集合體制ナリ、
 從ツテ共同目的ノ關スル限り國外諸國トハ異レル特殊ノ經濟的依存關係ヲ有シ且其ノ範圍ニ於テ
 經濟活動ニ付必要ナル統制ト制約ヲ受クルモ右以外ノ分野ニ於テハ經濟的ニ自主獨立ノ建前ヲ維
 持スルモノナリ

(五) 大東亞共榮圈ノ世界的性格ハ必スシモ消極的の乃至否定的ナラス其ノ目的ヨリ見ルモ其ノ特質ヨ
 リ見ルモ寧ロ協力的且發展的ナル傾向ヲ有ス

二、大東亞共榮圈ノ經濟的特徵

(一) 大東亞共榮圈ハ一邊ヲ大陸、他邊ヲ一連ノ島嶼トシ日本海、黃海、東南支那海等ヲ内海トスル

國家群ニシテ其ノ經濟の性格ハ大陸の性格ヲ有スル海洋國家群ナリ
 (二) 大東亞共榮圈ハ寒帶ヨリ熱帶ニ亘ル國家群ナルモ其ノ經濟の特徴ハ寒口熱帶の乃至亞熱帶の性格ニアリ

(三) 大東亞共榮圈ハ資源のニハ國防基礎資源及民生根幹物質ニ於テ略々自給可能ナル外數種ノ特徴アル世界の資源ヲ有スル自給の且發展の性格ヲ有ス

(四) 大東亞共榮圈ノ人の資源ハ世界人口ノ約四割ヲ占メ其ノ量ニ於テ豊富ナルノミナラス其ノ勞働單價亦低廉ナル特徴ヲ有ス

(五) 大東亞共榮圈ハ資本、交通手段、技術等ノ分野ニ於テハ他國ニ比シ劣位ニ在リ
 三、大東亞共榮圈ノ經濟政策ノ基調

(一) 大東亞共榮圈ノ經濟政策ハ當然其ノ理念、目的及其ノ經濟の特徴ヨリ歸納セラルヘキモノナリ
 圈内經濟政策

(イ) 圈内經濟ニ於テハ共同目的達成ノ爲必要ナル範圍ニ於テハ一定ノ綜合的計畫ニ基テ統制經濟又ハ協力體制ヲ、又右範圍以外ノ分野ニ於テハ共同目的達成ニ支障ナキ限り自主經濟ヲ其ノ基調トス

(ロ) 統制又ハ協力體制ハ實質のニハ指導國ノ區域ノ下ニ一定ノ綜合的計畫ニ基キ行ハルモノナルモ形式的ニハ各構成分子間ノ合意ノ方式ニ依ルモノトス

(ハ) 統制ノ限度ハ目標的、大綱的ナルヲ要シ手段的統制ハ寧ロ各構成分子ノ自律ニ委スルモノトス

(二) 統制ヲ加ヘ或ハ綜合的協力ヲ要スル經濟分野ノ主ナルモノ左ノ如シ

1、國防基礎資源及民生根幹物質ノ生産及配分

2、重要交通路ノ維持及輸送計畫並ニ國防基礎資源及民生根幹物質ノ輸送

3、勞務ノ有效ナル利用

4、回ヲ仲介トスル爲替制限ノ間接ナル運用及圈内資金ノ有效ナル利用

5、國防及民生ニ重要ナル關係アル技術ノ利用

(二) 對國外經濟政策

對國外經濟政策ニ就テハ前述ノ国内統制及協力體制ノ遂行ニ必要ナル範圍内ニ於テ統制ヲ受ケケル以外ノ分野ニ就テハ原則トシテ各國ノ自律ニ委ス、但シ

1、實質上ノ關係ニ於テ爲替ノ運用ニ依リ掣肘ヲ受ケルモノトス

2、必要ニ際シ對國外經濟の對抗措置ニ付圈内諸國カ共同シテ協力措置ヲトル

對國外經濟活動ハ指導國ニ於テ代表シテ行フ等ノ方式ヲ避ケ各構成分子ニ於テ一定ノ計畫ニ基テ統制ノ下ニ之ヲ行フモノトス

(イ) 交易

國防及民生ニ重要ナル關係アル物資輸出入及特殊ノ目的ヲ有スル輸出入等ノ計畫的ニ統制セラル

(ロ) 交通

國外重要交通路ニ對スル介入、圈内交通路ノ開放等統制的ニ行ハル

(ハ) 金融

- (一) 對國外爲料操作、對國外投資及外資誘導等統制的ニ行ハル
- (二) 技術ノ交流

國防及民生ニ重要ナル關係アル技術ノ交流ハ統制的ニ之ヲ助長ス

別紙第四號

「大東亞共榮圈ノ政治體制」(第二次案)

一、大東亞共榮圈ノ理念

大東亞共榮圈ノ理念ハ

(一) 大東亞ニ於ケル各國カ

相互ニ其ノ主權獨立及自主的發展ヲ尊重シツツ

米英ノ政治的經濟的支配ヨリ脱却シ各自ノ政治上經濟上ノ自律及安定ヲ確保セントスル共通

ノ利益及責任感ニ基キ相協力シテ共同ノ事業タル大東亞ノ平和安定ノ維持、防衛及大東亞ノ興隆ニ向テ努力セントスルモノナルト共ニ

(二)

世界全般トノ關聯ニ於テハ右ノ如キ政治的經濟的平和安定ヲ先ツ大東亞地域ニ確立セントスル現實的方法ニ依リ志向ヲ同クスル共榮圈外諸國家ト協力シツツ世界全局ニ類似ノ公正ナル平和ヲ招來セントスルモノナリ

二、共榮圈ノ政治構成

(一) 構成分子

大東亞ノ各獨立國トス、尤モ佛印等歐洲第三國ノ屬領ニ付テハ差當リ事宜ニ應シ準備構成分子ノ取扱ヲ爲スコトアリ

(二) 各國ノ地位及相互間ノ關係

(A) 各國ハ自主獨立ノ國家トシテ國際法ノ人格ニ於テ平等ナリ

(B) 自主獨立ハ相互ニ尊重スヘキモ共榮圈ヲ構成スル意味ニ於テ前記ノ如キ共通ノ利益及責任感ニ基テ協同行動ノ感念トヲ抱持スルコトヲ前提トス

(C) 法律的不平等ナルモ事實上ノ地位及實力ニ差異アルコトハ當然ナリ然レトモ此ノ點ハ法律の乃至ハ規約のニ明定セザルヲ可トス

(D) 從テ指導國ナル觀念殊ニ右觀念ヲ法の乃至規約のニ確定スルコトハ避ケルモノトス

(E) 共榮圈ノ構造ハ日本ヲ軸心トシ各國ヲ圓周トスルモノナルコトハ右(D)ト同様之ヲ事實上ノ運用ニ俟ツコトトシ法の乃至ハ規約のニ明定スルコトヲ避ケルモノトス

但シ大東亞憲章又ハ大東亞規約乃至ハ大東亞會議ノ構成運用ニ當リテハ各國平等ノ票決ヲ以テ決定スル等ノ所謂國際聯盟の構成及運用モ亦當分ニテ避ケルコトヲ可トス

三、共榮圈ト外部トノ政治關係

共榮圈ト外部トノ政治關係ニ於テ特記スヘキ點左ノ通

(A) 共榮圈ハ政治的ニハ地理的ニ近接スル大東亞各國間ノ平和安定ノ機構ニシテ右ハ地域の部分的平和ヲ確保シテ世界平和安定ニ寄與セムトスル着實且現實的平和機構ノ思想ヲ表現ナルト共ニ

(此ノ意味ニ於テ「モンロー」主義乃至「汎米思想」近ク國際聯盟思想トハ遠シク領國の排外的掩蔽の思想ニ出テタルモノニ非ス

(B) 共榮圏ト外部トノ政治關係ハ特ニ共榮圏各國間ノ規約等ニ於テ明定セラレタル事項(平和安定ノ維持、防衛並共同ノ經濟建設ニ關スル特定ノ事項ニ關シ先ツ共榮圏各國間ニ於テ協議ヲ要スルモノ)ヲ除キ共榮圏ナル團體ト外部トノ關係ヲ生スルコトナシ換言セハ共榮圏各國ト世界ノ如何ナル國ト雖モ國家間ニ於ケル通常ノ外交關係ヲ維持ス唯前記特定事項ニ付テハ共榮圏内規約ニ反セザルコトヲ要スルニ止マル

又共榮圏トシテ外部ニ對シ行動ヲ爲ス方法トシテ共榮圏ノ代表若ハ代理機關ヲ設ケルコトナシ換言セハ指導國ナルモノカ圈内國ニ代リ外部ト交渉シ又ハ協定スル如キハ採ラサル所トス

(C) 右ノ結果トシテ共榮圏各國ハ何レモ自主的ニ外部各國ト外交使節ヲ交換シ且外交ヲ行ノヲ妨ケス其ノ外交ヲ内容のニ制限スルモノハ自ら規約ニ依リ制限スル範圍ニ止マル

四、共榮圏ノ構成ト大東亞會議トノ關係

(一) 前陳共榮圏ノ構想ハ之ヲ或ル程度成文化スルコトヲ便宜トスル處之カ方法トシテ考慮スヘキハ左ノ通

(A) 日本對各國間條約ニ依リ個別的ニ軸心ニ向ケテ構成スル方法

(B) 多邊條約ニ依リ一舉ニ構成スル方法

(C) 政策ノ宣言ヲ行フ場合(共同宣言トナルカ一國ノ宣言ニ對シ他國カ賛意ヲ表明スルコトモアリ得ヘシ)

而シテ(1)ノ方法ニ付テハ相當國內ニ異論アリ(2)ニ付テハ必スシモ適當ナラサルモノアル一方大東亞會議ノ開催ヲ前提トスル場合ニ於テ最モ實際的方法ハ大東亞會議ノ結果トシテノ共同宣言ニアリト判斷セラレ

(二) 依テ大東亞會議ニ上提シ採擇セシムヘキ宣言案ニ於テ共榮圏ノ構想ニ關レ共榮圏各國ノ關係及其範圍ト外部トノ關係ニ關スル思想ヲ闡明スルコト可然、但シ事實宣言ナルヲ以テ其レ自體未タ規約の内容ト拘束力トヲ期待セザルヲ適當トスヘク寧ロ啓蒙宣傳價值ヲ重點トシテ作製スルヲ可トス

(三) 次テ大東亞會議ノ立場ヨリ檢討スルニ左ノ如キ問題アリ

(A) 宣言 宣言ノ内容ハ米英聲威ニ關スル決意ノ表明ト大東亞建設ニ關スル政策ノ闡明トノ二ツヲ要素ヨリ成ル之ヲ單一ノ宣言ニ盛り込マヤ否ヤノ研究

(B) 議題 議題ニ付テハ事前協議スルヲ可トスルモ其ノ際日本側ノ提案トシテ何ヲ出スヤ又各國側ノ發言提案等ヲ相當自由ニナシタル會議トスルヤ或ハ宣言案等ヲ中心トシ具體的成果ヲ期待スル會合トナシヤノ研究

(C) 議事進行 前記(B)トモ關聯スルモ更ニ決定制度等ヲ設ケサルヲ可トスヘシ
(D) 今後ノ會議ニ關スル事項 宣言ニモ關聯スル所ナルカ大東亞會議ヲ定期若ハ隨時間催方ノ中台等並其ノ際ノ規約等ノ研究

「大東亞共榮圈ノ經濟體制」(第二次案)

一、大東亞共榮圈ノ經濟の本質

- (一) 大東亞共榮圈トハ之ヲ世界經濟進步ノ過程ヨリ見ルトキハ近代經濟生活ノ發達ト複雜化、殊ニ近代戰爭ノ消耗性ト多種性等ノ要求ヨリ來ル必然的ナル結果體制ナリ
- (二) 大東亞共榮圈トハ之ヲ發生的ニ見レハ英、米、蘭ノ經濟的壓迫ニ對抗シ及其ノ採取ヨリ離脱セシトスル大東亞諸國ノ自衛體制ナリ

- (三) 大東亞共榮圈トハ之ヲ目的的ニ見レハ國家生活ノ安全感確保ヲ直接ノ共同目的トシ、延イテハ世界全局ニ類似ノ熊形ノ國家又ハ國家群ヲ構成スルコトニ依リ世界永遠ノ平和ヲ招來スルコトヲ終局ノ目標トスル大東亞諸國ノ協力體制ナリ

- (四) 大東亞共榮圈トハ之ヲ構成的ニ見レハ共同目的ノ下ニ結集セル獨立經濟單位ノ集合體制ナリ、從ツテ共同目的ノ關スル限リ國外諸國トハ異レル特殊ノ經濟的依存關係ヲ有シ且其ノ範圍ニテ經濟活動ニ付必要ナル統制ト制約ヲ受クルモ右以外ノ分野ニ於テハ經濟的ニ自主獨立ノ建前ヲ維持スルモノナリ

- (五) 大東亞共榮圈ノ世界性格ハ閉鎖的乃至非協力的ノモノニ非ス其ノ目的ヨリ見ルモ其ノ特質ヨリ見ルモ寧ロ協力的且發展のナリ

二、大東亞共榮圈ノ經濟的特徵

- (一) 大東亞共榮圈ハ一邊ヲ大陸、他邊ヲ一連ノ島嶼トシ日本海、黃海、東南支那海等ヲ内海トスル

國家群ニシテ其ノ經濟的性格ハ大陸の性格ヲ有スル海洋國家群ナリ

- (二) 大東亞共榮圈ハ寒帶ヨリ熱帶ニ亘ル國家群ナルモ其ノ經濟的特徵ハ寒ロ熱帶的乃至亞熱帶的の性格ニアリ

- (三) 大東亞共榮圈ハ資源のニハ國防基礎資源及民生根幹物資一於テ略々自給可能ナル外數種ノ特徴アル世界の資源ヲ有スル自給的且發展の性格ヲ有ス

- (四) 大東亞共榮圈ノ人的資源ハ世界人口ノ約四割ヲ占メ其ノ量ニ於テ豊富ナルノミナラス其ノ勞働單價亦低廉ナル特徴ヲ有ス

- (五) 大東亞共榮圈ハ資本、交通手段、技術等ノ分野ニ於テハ他圈ニ比シ劣位ニ在リ

三、大東亞共榮圈ノ經濟政策ノ基調

- (一) 大東亞共榮圈ノ經濟政策ハ當然其ノ理念、目的及其ノ經濟的特徵ヨリ歸納セラルヘキモノナリ

(一) 國內經濟政策

- (4) 國內經濟ニ於テハ共同目的達成ノ爲必要ナル範圍ニ於テハ一定ノ綜合的企畫ニ基ク計畫經濟又ハ協力體制ヲ、又右範圍以外ノ分野ニ於テハ共同目的達成ニ支障ナキ限リ自主經濟ヲ其ノ基調トス

- (ロ) 計畫經濟又ハ協力體制ハ實質的ニハ指導國ノ區域ノ下ニ一定ノ綜合的企畫ニ基キ行ハルルモノナル形式的ニハ各構成分子間ノ合意ノ方式ニ依ルモノトス

- (ハ) 綜合的經濟計畫ハ目標的、大綱的ナルヲ要シ手段的部面ハ各構成分子ノ自律ニ委ヌルモノトス
- (ニ) 計畫經濟ヲ行ヒ或ハ綜合的協力ヲ要スル經濟分野ノ主ナルモノ左ノ如シ

- 1、重要國防資源及民生根幹物資ノ生産及配分
- 2、重要交通路ノ維持及輸送計畫並ニ重要國防資源及民生根幹物資ノ輸送
- 3、勞務ノ有效ナル利用
- 4、四ノ仲介トスル爲替制度ノ開滑ナル運用及國內資金ノ有效ナル利用

(二) 對國外經濟政策

對國外經濟政策ニ就テハ前述ノ國內計畫經濟及協力體制ノ遂行ニ必要ナル範圍內ニ於テ制約ヲ受ケ其レ以外ノ分野ニ就テハ原則トシテ各國ノ自主ニ委ヌ、但シ

- 1、實質上ノ關係ニ於テ爲替ノ運用ニ依リ製財ヲ受クルモノトス
 - 2、必要ニ際シ對國外經濟的對抗措置ニ付國內諸國カ共同シテ協力措置フトル
- 對國外經濟活動ハ指導國ニ於テ代表シテ行フ等ノ方式ヲ避ケ各構成分子ニ於テ一定ノ綜合計畫ニ基キ之ヲ行フモノトス

(イ) 交 易

國防及民生ニ重要關係アル物資ノ輸出入及特殊ノ目的ヲ有スル輸出入等ハ一定ノ綜合計畫ニ基キ實行セザル

(ロ) 交 通

國外重要交通路ニ對スル參加、國內交通路ノ開發等ハ綜合的計畫ニ基キ行ハル

(ハ) 金 融

對國外爲替操作、國外投資及外資誘導等局前

(ニ) 技術ノ交流

國防及民生ニ重要ナル關係アル技術ノ交流ハ計畫的ニ之ヲ助長ス

別紙第六號

「大東亞宣言」案 (安東幹事長立案)

大東亞ヲ大東亞外諸國ノ侵略又ハ植民地の擄取ヨリ永遠ニ解放シ大東亞各民族ノ安定ヲ確保シ福祉ヲ増進シ以テ萬邦共榮ノ世界ノ建設ト人類ノ平和的發展ニ寄與センガ爲大東亞各國政府代表ハ茲ニ會合シテ大東亞新秩序ノ綱領ニ付隔意無キ意見交換ノ結果完全ナル合意ニ達シ左ノ通り宣言ス

一、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立及領土ヲ尊重スルト共ニ善隣友好互助協力ノ關係ヲ確立スベシ

二、大東亞各國ハ其ノ何レカノ國カ大東亞ノ外部ヨリ干渉、壓迫又ハ脅威ヲ受クル場合之ヲ大東亞全般ノ安全ヲ危フスルモノト認メ共同シテ防衛スベシ

軍備ハ不脅威不侵略ノ原則ニ基キ維持セラルベシ

三、大東亞各國ハ民生ノ安定向上ヲ確保スベキ有無相通共存共榮ノ緊密ナル經濟關係ヲ確立スベシ

四、大東亞各國ハ大東亞地域ニ於ケル資源ノ開發及利用ニ付箇中ノ原則ノ下ニテ世界ニ開放シ且大東亞外各國ト間ニ平等互惠ノ原則ノ下ニ交易ヲ増進シテ世界經濟ノ發達及繁榮ニ協力スベシ

五、大東亞各國ハ信敬ノ自由ヲ認メ且相互ニ各民族文化ノ本然ノ特質ヲ尊重スルト共ニ文化ノ融合創

別紙第七號

「大東亞會議決議案」(足形幹事立案)

大東亞諸國代表ハ茲ニ一堂ニ會シ本口大東亞新秩序形成ニ關スル宣言ヲ發出セリ
 願ルニ大東亞ハ數世紀ニ互ル英米兩國ノ壓迫ト其ノ植民地の搾取ノ爲ニ常ニ其ノ安定ヲ擾亂セラレ民
 生ハ其ノ本然ノ發展ヲ妨礙セラレ來レリ即チ彼等ハ或ハ大東亞ニ領地ヲ潛奪シテ威壓ノ府ニシ或ハ內
 政ニ介入シテ内亂ヲ助長シ或ハ經濟ヲ支配シテ民生ヲ苦シメ而モ唱スルニ人道ト文化ノ名義ヲ以テセ
 リ然レトモ今ヤ大東亞諸民族ノ覺醒ハ大日本帝國ノ蹶起ニ俟ツテ大東亞ニ加ヘラレタル此ノ不正不
 義ヲ斷然破摧スルニ至レリ之レ正ニ天ノ命ニシテ又實ニ世界史ノ要諦タリ今日我等カ斯塔ヲ英米兩國
 ノ多年ノ枉情ヨリ解放セラレタル大東亞ヲ相寄り相扶ケテ保衛シ其ノ自主且自由ナル發達ヲ遂ケント
 スル誠ニ理ナリト謂フヘシ
 抑々今次ノ戰爭ハ數個ノ國家ノ植民地の搾取ヲ基礎トスル世界資源ノ獨占斷斷ト爾餘ノ民族及國家ノ
 自由且正常ナル發展ノ矛盾相起ニ起因スルモノニシテ從テ世界恒久ノ平和ヲ保持セシムルニハ其ノ前
 提トシテ先ツ各民族ヲ植民地の壓迫ト搾取ヨリ解放シテ而シテ其ノ各々ニ生活ノ安定ト繁榮トヲ確保スル
 爲資源ノ公正ナル配分ヲ保障スルヲ要ス然ルニ世界人口ノ漸増ト文明ノ發達トハ今日多クノ民族及國
 家ヲシテ其ノ舊來ノ生存圈ニ於テ其ノ民生ヲ保持ト安定トヲ所期シ得サラシムルニ至レリ此處ニ於テ

是等ノ民族又ハ國家ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメンカ爲ニハ其ノ必然ノ結果トシテ所要ノ資源的配分ヲ
 兼底トシテ相互ニ其ノ生存圈ヲ夫々ノ緣由ニヨリ協力シ得ヘキ其共同體制ニ迄擴大スルコトヲ認メサ
 ルヘカラス斯クスルコトニヨリ各民族及國家ハ各々其ノ自由ナル發展ト繁榮トヲ遂ケ他ヲ侵リサルト
 同時ニ廣ク相互ニ有無相通シ人類全體ノ興隆ニ寄與シ世界ヲ終局ニ於テ共存共榮ノ一帯ニ迄發展セシ
 ムルニ至ルヘシ大東亞諸國カ大東亞ニ形成セントスル新ナル秩序ハ斯クノ如キ新ナル世界觀ニ出發ス
 ルモノニシテ從テ右ハ毫末モ閉鎖的乃至排他的性格ヲ有スルモノニアラスシテ其ノ本質ニ於テ人文發
 達ノ現段階ニ即應シテ人類永遠ノ平和的發展ニ寄與セントスルモノナリ

大東亞諸國ハ茲ニ英國及米國並ニ其ノ輿國ニ對シ今次戰爭ノ原因ヲ冷靜ニ反省スルト同時ニ此ノ否定
 スヘカラスル世界史ノ要諦ヲ直視シ戰爭ヲ地上ヨリ永久ニ消滅セシムヘキ新ナル世界秩序ノ建設ニ積
 極的ニ協力センコトヲ提言ス而シテ尙彼等ニシテ此ノ人類歴史ノ發展ニ眼ヲ鎖シ所謂民族ノ自由ト脅
 威ヨリノ解放ノ名義ノ下ニ依然トシテ前世紀ノ秩序ヲ固執シ而シテ大東亞ニ對シテハ再ヒ舊來ノ侵略
 ト干渉ト搾取ト恢復セントスルニ於テハ我等ハ其ノ非違ト非望トヲ人類ト文化ト平和ノ名ニ於テ飽
 タ迄糾弾破摧スヘタスクテ現ニ生起シソツアル人類類禍ノ一切ノ責任ハ英米兩國ニ歸セラルヘキコト
 ヲ宣言ス

別紙第八號

說 明

昭和十八年十月四日 外務省

一、大東亞ノ結集及對外宣傳特ニ對英米外交攻勢ヲ目途トスル大東亞會議ノ開催ヲ豫定シテ同會議ニ

於ケル共同宣言案及之ニ附隨スル決議案ヲ作成セリ

二、共同宣言案ハ所謂大東亞宣言案ニシテ參加各國ノ大東亞建設ニ關スル根本方針ヲ共同ニ闡明スルノ趣旨ニシテ其ノ内容及體裁ハ大東亞政策ノ準則ヲ示シ特ニ大東亞各國民ヲシテ自發的協力ノ念ヲ起サシムル也同時ニ將來ニ對スル不安ヲ一掃シ且相互間ノ疑懼ヲ封スルト共ニ對英米外交攻勢ニ有
效適切ナラシメンコトヲ期シタリ即チ大東亞ガ何人ヨリ見ルモ客觀的ニ公正妥當ナル原則ニ立テ世界平和を維持シ一大基礎タリ得ルモノナルコトヲ明ニシ敵英米ニ大義名分ナク我ニ之ノ存スル所以ヲ
感得セシムルガ如キ措辭ヲ用ヒタリ尙本宣言ハ如上ノ見解ニ基キ融通性ヲ保持スル爲條約ノ形式ヲ
採ラズ

三、決議案ハ右共同宣言案ニ關聯シ大東亞ニ對スル英米ノ非違ヲ明ニシ戰爭ノ根本原因ヲ究明シテ世界平和維持ニ對スル我方ノ根本的見解ヲ表明スルト共ニ大東亞共榮固建設ノ至當ナル所以ヲ證明シ以テ英米ノ猛省ヲ促スト同時ニ大東亞各國民ノ戰爭遂行ニ對スル熱意ノ昂揚ヲ期シタルモノナリ英
米特ニ米ハ機會アル毎ニ戰後ノ世界協力ニ對スル方針ヲ聲明シテ自己ニ有利ナル様世界輿論ヲ準備
シツツアル現狀ニ鑑ミ右ニ對スル措置トシテモ我方ノ公明正大ナル世界平和維持ニ關スル見解ヲ平
易ニ解說シ置クコトハ此ノ際有意義ナリト認ムル次第ナリ

大東亞共同宣言案

昭和十八年十月四日
外務省研 究案

大東亞ヲ大東亞外諸國ノ侵略又ハ植民地的搾取ヨリ永遠ニ解放シ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ惹テ萬邦

共榮ノ世界ノ建設ト人類ノ平和的發展ニ寄與セシガ爲大東亞會議ニ參列セル大東亞各國政府代表ハ共
同シテ左ノ通り宣言ス

- 一、大東亞各國ハ大東亞ヲ永遠ニ解放シ大東亞諸民族ノ自主的向上發展ヲ基調トシ大東亞全體ノ共存
共榮ト安定ヲ確保スベキ秩序ノ建設ニ協同センコトヲ期ス
- 二、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立及領土ヲ尊重スルト共ニ善隣友好互助協力ノ關係ヲ確立センコトヲ
期ス
- 三、大東亞各國ハ外部ヨリノ脅威ト侵略ニ對シ共同シテ大東亞ヲ保衛センコトヲ期ス
- 四、大東亞各國ハ民生ノ向上ト相互ノ經濟的安定ヲ圖ランガ爲經濟上相互ニ緊密ニ提携協力スルト共
ニ衡平互惠ノ原則ノ下ニ廣ク世界ニ資源ヲ開放シ交易ヲ増進シ世界經濟ノ發達及繁榮ニ協力センコ
トヲ期ス
- 五、大東亞各國ハ相互ニ各民族文化ノ本然ノ特質ヲ尊重シ「アジア文化」ノ昂揚ヲ圖リ以テ世界人文ノ
發達ニ寄與センコトヲ期ス
- 信教自由ノ原則ハ大東亞各國ニ於テ尊重セラルベシ

大東亞會議決議案

昭和十八年十月四日
外務 研 究案

大東亞會議ニ參列セル大東亞各國政府代表ハ本日大東亞建設ニ關スル宣言ヲ發出セリ
願ミルニ大東亞ハ數世紀ニ亘ル英米兩國ノ壓迫ト其ノ植民地的搾取ノ爲ニ常ニ其ノ安定ヲ擾亂セラレ

民生ハ其ノ本然ノ發展ヲ妨礙セラレ來レリ即チ彼等ハ或ハ大東亞ニ領地ヲ併奪シテ威壓ヲ損ニシ或ハ
 內政ニ介入シテ内亂ヲ助長シ或ハ分裂抗爭ヲ以テ大東亞制御ノ具トナシ或ハ經濟ヲ支配シ小利ヲ與ヘ
 テ住民ヲ懷柔シ民生ヲ督ヘリ然レドモ今ヤ大東亞諸民族ノ覺醒ハ此ノ不正ト不義ヲ斷然破損シ茲ニ相
 寄り相扶ケテ大東亞ヲ保衛シ其ノ自主且自由ナル發達ヲ遂ゲントスル誠ニ理ナリト謂フベシ

抑々今次ノ戰爭ハ英米ガ植民地の擄取ヲ基礎トスル世界資源ノ獨占壟斷ヲ持續シ利己の秩序ヲ世界ニ
 強制セントシテ他民族及他國家ノ名譽ト生存ヲ無視シ且其ノ自由正常ナル發展ヲ阻止セントセルニ起
 因ス依テ茲ニ世界恒久ノ平和ヲ確立シヘンガ爲ニハ世界ヲ其ノ植民地の壓迫ト搾取ヨリ解放シ各民族及
 國家ヲシテ夫々其ノ自主的發展ヲ遂ゲシメ其ノ繁榮ト安定ヲ確保セシメザルベカラズ而シテ之ガ爲最
 善ノ方法ハ世界ノ各國ガ夫々自主獨立ヲ基調トシテ地方的ノ政治上經濟上ノ安定ヲ確保スベク協力シ
 而シテ他地域ノ諸國ト相互ニ有無相通シ以テ世界平和ノ維持ニ努ムルニアリスクテ世界ハ結局ニ於テ
 共存共榮ノ一體ニ迄發展スルニ至ルベシ大東亞各國ガ大東亞ニ建設セントスル新ナル秩序ハ右ノ如キ
 見地ニ立脚スルモノニシテ右ハ空モ閉鎖の乃至排他的性格ヲ有スルモノニアラズ其ノ本質ニ於テ人類
 永遠ノ平和的發展ニ寄與セントスルモノナリ

斯クテ大東亞諸民族及國家ハ右理想ノ下ニ大東亞地域ニ於テ既ニ其ノ領土ヲ侵略ヨリ恢復シテ獨立ヲ
 復活シ其ノ國權ヲ永年ノ壓迫ヨリ回收シテ自主ヲ確立シ其ノ民生ヲ積年ノ搾取ヨリ解放シテ其ノ福祉
 ヲ確保シツツアリ此ノ基礎ノ上ニ大東亞各國ハ提携シテ大東亞永遠ノ安定ヲ圖ルベク力ヲ致サントス
 然レ英國及米國ハ依然トシテ舊來ノ觀念及秩序ヲ固執シ再び大東亞ヲ侵犯シ干渉ト搾取ヲ擅ニセン

トス因テ大東亞諸國ハ一致團結益々大東亞戰爭完全ニ邁進シテ其ノ世界平和招來ニ努力スベシ

三、日獨共同宣言問題

上局ヨリ日獨共同宣言ノ發出ニ關スル問題ニ付研究方下命アリ而シテ共同宣言ノ内容トシテ日獨ハ
 (一) 自存自衛ノ爲戰ヒ居ルコト(二) 民族國家政策ニ基調ヲ置キ居ルコト(三) 經濟ノ分野ニ於テ互惠開放
 主義ヲ採ルコト(四) 日獨ハ交通ノ自由、通信ノ自由等ノ主義ヲ採ルコト等ヲ掲グルコトトシ此等ノ諸
 點ト大東洋憲章トノ比較、大東亞共同宣言トノ關係、太平洋ノ將來ナル問題トノ關聯性ヲ研究スベシ
 ト言フニ在リ

右趣旨ニ依リ昭和十八年十月八日ヨリ同日二十日ノ間ニ互リ會議ヲ開催シ左ノ如ク第一案及第
 二案ニ意見ヲ附シテ答申シ參考ニ供シタリ

意見 見(案)

一八一〇、二〇

- 一、日獨共同宣言ヲ行フニ當リ最モ苦心ヲ要スルハ日獨兩國ノ戰爭目的ガ必ズシモ同一ナラズ日本ノ
 戰爭目的ハ主トシテ米英ノ壓迫ヲ排除シテ大東亞ヲ開放スルニ在ルモ獨逸ノ戰爭目的ハ「ポルシェ
 ヴァズム」ノ擊破ト米英金權主義ノ打倒ニシテ獨逸トシテハ特ニ其ノ前者ヲ重視シ居レリ
- 二、從テ兩國ガ共同宣言ヲ行フニ當リテハ兩國主張ノ最大公約數ヲ採ルノ他ナク而シテ獨逸側ヲ欣然
 同調セシムルニハ三國條約ノ趣旨ヲ敷衍シテ右最大公約數ヲ盛込ミタル第一案ノ如キ内容ノモノヲ

可トスベシ對波蘭、「チエツコ」等ノ處理ニ付機微ナル問題ヲ有スル獨逸トシテハ「各國家民族ノ自主的發展」ト云フガ如キ原則ハ表明スルヲ好マザルベク第一案ニ於テハ之ノ案文中ニ他ノ諸主張ト共ニ平面的ニ記述シ置クニ止メタリ

三、第二案ハ日獨兩國ノ共同戰爭ヲ以テ夫々自存自衛ノ爲ノ戰爭ナリトシ戰爭完遂ノ決意ヲ表明スルト共ニ大西洋連羣ニ對抗スル意味ヲ以テ戰後ノ根本政策ヲ原則ノニ列舉セルモノナリ此ノ方法ニ依ルトキハ列舉サレタル諸原則ガ立體的ニ浮揚セラルルヲ以テ獨逸トシテハ「各民族ノ自主的發展」ノ削除、「ホルシテライズム」ノ打倒等々ノ挿入等ヲ希望スルノ可能性アリ、又獨逸ノ希望ヲ無視シテ強ヒテ我方主張ニ同調セシムルトキハ彼ヲシテ共同戰爭遂行ニ關スル我方誠意ヲ疑ハシムルノ虞モアルベシ

四、共同宣言案ノ作成ガ内容何ニ幾多ノ困難アルハ彼上ノ如クナルガ其ノ發表ノ時期ニ關シテモ慎重ナル注意ヲ必要トスベク案ノ内容及發表ノ時期如何ニ依リテハ日獨方弱リタル爲和平條件ヲ提示セリト見ラルルル虞モ無キニシモアラザルベシ

第一案

十八、十、十五

日獨兩國ハ世界恒久平和ガ萬非各其ノ所ヲ得ルノ狀態ニ於テ初メテ實現セラルベシトノ崇高ナル道義の確信ニ基キ大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ各其ノ地域ニ於ケル當該國家族ノ共存共榮ノ實ヲ舉グルニ足ルベキ秩序ノ建設ヲ其ノ努力ノ目標トシ來レル處一九四〇年九月ノ條約ニ於テ兩國ハ共同シテ右確

信ヲ表明シ其ノ共同ノ目的ノ爲相互ニ提携協力スルコトヲ約シ之ニ依リ地域の安定確保ニ依ル世界恒久平和ノ貢獻、各國家民族ノ自主的發展ト向上、衡平互惠ノ原則ト下ニ於ケル各地域資源ノ世界的開放、各國家民族ノ文化及信仰ノ尊重ヲ意圖シタリ

今ヤ兩國ハ緊密ナル連絡ノ下ニ右共同目標ノ完全ナル實現ノ爲正義ニ基キ共同ノ戰爭ヲ果敢ニ遂行シテツアアルト共ニ大東亞ノ地域ニ於テハ華府體制ヲ破壊セシメテ中華民國ノ眞ニ自主的國家トシテノ成長ヲ助成シ泰國ノ民族の興隆ヲ援助シ又「ビルマ」及「フィリピン」ニ付テハ之ヲ英米ノ羈絆ヨリ解放シテ其ノ獨立ヲ實現セシメ他方歐洲ノ地域ニ於テハ「ウエルサイユ」體制ヲ打破シテ各國家民族ヲ右體制ニ依ル不自然且不合理ナル桎梏ヨリ解放シ夫々其ノ本然的向上發展ヲ實現シ得ベキ基礎ヲ確立セリ之ニ對シ人類ノ進歩ヲ無視シ舊秩序ノ墨守ニ依リテ世界制覇ノ夢ヲ貪ラントスル諸敵國ノ反攻ハ最近ニ於テ往々熾烈ナルモノアル處日獨兩國ハ人類正義ノ爲之等諸敵國ノ鬭爭ニ對スル信念ト努力トヲ一層強化スベク更ニ兩國ハ世界到ル處ニ於テ諸敵國ノ不法ナル壓迫乃至主權ノ侵害ヨリノ解放ノ爲努力スル諸國家民族ニ對シ協力ヲ寄マザルベシ

日獨兩國ガ世界恒久平和ニ關シテ抱懷スル理想ハ始終不變ニシテ尚後共兩國ハ共同理想ノ實現ヲ圖ル爲他ヲ迨同戰爭ノ完遂ヲ期スルノ決意ヲ茲ニ更メテ力強ク表明スルモノナリ

第二案

十八、十、二十

一、日獨兩國ハ其ノ現ニ遂行中ノ戰爭ガ兩國及其ノ與國ノ生存確保ヲ目的トスル自衛ノ戰爭ナルコト

ヲ確信スルガ故ニ有ラユル壓迫ヲ排撃シ有ラユル障害ヲ克服シ飽ク迄其ノ共同戰爭ノ完遂ニ邁進セ
ンコトヲ期ス

二、日獨兩國ハ大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ各民族ガ自主的發展ヲ遂ゲ共存共榮ヲ確保シ得ルガ如
キ秩序ノ建設ニ依リテ世界恒久平和ニ寄與センコトヲ期ス

三、日獨兩國ハ各民族ノ文化及信仰ヲ尊重シ各民族ノ創造的精神ヲ伸暢シ世界人文ノ發展ニ貢獻セン
コトヲ期ス

四、日獨兩國ハ天然資源ノ公平ナル配分ガ正義ニ合致スルコトヲ惟ヒ大東亞及歐洲ニ於ケル資源ガ衝
不互惠ノ原則ノ下ニ廣ク世界ニ解放セラレル様努力センコトヲ期ス

五、日獨兩國ハ公海及公海ト公海トヲ連絡スル通路ニ於ケル自由ナル航行ノ實現ヲ期ス

四、「大東亞宣言」四國宣言

上局ノ命ニ依リ「大東亞宣言」四國宣言（「モスコ」會議ト國際情勢第六節）ヲ検討シ（昭和十八
年十二月九日及同月十六日）修正意見ヲ以テ答申シタリ

第十七章 國際法學會特別問題委員會

一、「大東亞宣言」ノ研究

國際法學會ニ特別問題委員會ヲ組織シ第一着手トシテ「大東亞宣言」ニ付研究ヲ行フコトト爲リ山田
三良、山川端夫、長岡春一、堀内謙介、神川彦松、松田道一、齋藤良衛、安東義良ノ諸氏ヲ委員ニ舉

グ五月三十一日第一回會合ヲ開催シ七月九日ニ互ル迄會合ヲ重スルコト六回委員提出ノ案文ニ付協議
ナキ研究乃至意見ノ交換ヲ行ヒ左ノ如キ大東亞宣言案ヲ得タリ

大東亞宣言案

昭和十八年七月二十三日
國際法學會特別問題委員會

大東亞諸國ハ萬邦各其ノ所ヲ得兆民悉ク其ノ塔ニ安ゾルヲ以テ恒久平和ノ根本義ナリト認メ
之ガ爲メ英兩國多年ノ挫折ヨリ「アジア」ヲ解放シ大東亞諸民族ノ自主的發展ト共存共榮ノ實ヲ舉グベ
キ道義ニ基ク新秩序ヲ建設維持スルコトニ決シ

更ニ世界到ル所ニ於テ志ヲ同ニスル諸國ト協力シテ世界ニ於ケル平和ノ維持及人類福祉ノ増進ニ貢獻
センコトヲ期シタルニ依リ

茲ニ大東亞新秩序ノ綱領ニ付協議ナキ意見交換ノ結果完全ナル合意ニ達シ左ノ通り宣言ス

一、大東亞諸國ハ大東亞民族ヲ永久ニ解放シ其ノ自主的向上發展ヲ促進スベキ道義ニ基ク新秩序ヲ
建設維持スルコトニ協力スベシ

二、大東亞諸國ハ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲メ相互ニ其ノ自主獨立及領土ヲ尊重スベシ

三、大東亞諸國ハ大東亞全體ノ安全ト其通利益ヲ確保スル爲メ共同運籌シテ相協力スベシ

四、大東亞諸國ハ其ノ一國ニ對スル大東亞外ヨリノ一切ノ壓迫又ハ脅威ハ大東亞諸國全部ニ對スル壓
迫又ハ脅威ナルコトヲ認メ各々其ノ分ニ應ジ其ノ力ヲ竭シ相扶ケテ共同防衛ノ責務ヲ全ウス

ベシ

五、大東亞諸國ハ大東亞各地方ノ特長ヲ助長シ長短相補シ有無相通シ一體トシテノ緊密ナル經濟提携ヲ行ヒ以テ大東亞各民衆ノ生活ノ安定及福祉ヲ確保増進スベシ

六、大東亞諸國ハ大東亞地域ニ於ケル資源ノ開發及利用ニ付テハ衡平ノ原則ノ下ニ世界ニ之ヲ開放シ又世界各國トノ間ニ通商上互惠協力關係ヲ設定シテ世界經濟ノ發達ト繁榮トニ貢獻セントス

七、大東亞諸國ハ大東亞文化ノ本然ノ特質ヲ尊重シテ緊密ナル協力ノ下ニ文化ノ融合創造及發展ニ努メテ以テ大東亞文化ノ昂揚ヲ計リ進ンデ世界文運ノ進展ニ寄與スルトコトヲアラントス

八、大東亞諸國ハ志ヲ同ツル世界各國ト相協力シテ夫々其ノ屬スル地域ニ於テ正義ト公正トニ基クテ新秩序ヲ樹立シテ不脅威不侵略ノ原則ヲ尊重シ和平競争ノ手段ニ依リ國際關係ヲ處理シ以テ世界ノ平和維持及福祉増進ニ貢獻セシメントラ期ス

註

六、ニ關シテハ其ノ根本原則即チ資源ノ開放通商上ノ互惠關係設定ニ付各委員間ニ意見ノ一致ヲ見ザリシモ參考ノ爲其ノ儘採録セリ

二、戰後時局收拾問題

次デ戰後時局收拾ノ問題ニ付一週一回乃至二週一回意見ノ交換ヲ遂ゲタリ
主タル題目乃至内容左ノ如シ

一、戰局ノ歸趨ニ關スル意見ノ開陳
一、今次戰爭ニ於ケル帝國最少限度ノ要求

一、聖戰戰略ニ互リ帝國ノ爲スベキ施策就中對「ソ」問題、獨「ソ」問題

一、對米、英思想謀略、宣傳

一、齊藤委員稿「聖戰外交ト我輩少限度ノ要求」

一、齊藤委員稿「聖戰ニ關スル我輩少限度對外要求案」

三、大東亞フ中心トスル世界平和機構ニ關スル研究

大東亞フ中心トスル世界平和機構ノ問題ニ付左ノ如ク研究審議シ本委員會トシテノ一應ノ決定案（別紙已覽）ヲ得タリ

第一回（昭和十八年十一月十二日）一般の意見交換

第二回（昭和十八年十一月二十日）神川委員ヨリ所見開陳

第三回（昭和十八年十一月二十九日）神川委員作成「大東亞フ中心トスル世界平和機構」要綱（案）

（別紙甲覽）ニ付審議

第四回（昭和十八年十二月七日）同前

第五回（昭和十八年十二月二十日）同前

第六回（昭和十九年一月十日）條二作成世界平和機構試案（別紙乙覽）ニ付審議

第七回（昭和十九年一月十七日）長岡委員作成世界機構案（別紙丙覽）、「大東亞内ニ於ケル紛争ノ平和的解決ニ關スル共同宣言案」（別紙丁覽）及山川委員作成「平和機構綱領議案」（別紙戊覽）

ニ付審議

第八回（昭和十九年一月三十一日）山川委員作成「平和機構綱領試案」ニ付審議

第九回(昭和十九年二月十四日)同前

第十回(昭和十九年二月二十一日)同前

第十一回(昭和十九年三月十七日)「平和機構綱要案」(山川委員原案)(別紙己號)ヲ審議決定
 尙右ニ關聯シ山川委員作成ノ「大東亞各國ノ防衛ニ關スル宣言試案」ニ付審議シ(昭和十九年三月二十七日)本委員會トシテノ一應ノ決定案(別紙庚號)ヲ得タリ

(別紙甲號)

「大東亞ヲ中心トスル世界平和機構」要綱(案)

昭和十八年十一月 神 川 委 員

目 次

- 第一序論
 第二、大地域主義ニ據ル平和機構概説
 第三、大東亞ノ平和機構
 第四、世界的平和機構

第一序論

戦後ニオケル平和機構(Organization of Peace)ノ問題ニ關シテハ、反樞軸側ノ諸國並ニ樞軸側ノ諸國ニオイテ、種々ノ意見、主張乃至構想ガ提唱サレテキルコトハ一般ノ知ルガ如クデアアル。コレラノ諸提唱ハ大觀スルト、結局ニツノ範疇ニ歸着スルニ至ルト看ルコトガ出来ル。ソシテ戦後ニオイテ、實際上起リ得ベシト想察セラレル平和組織モ結局ニツノ方向ニ歸着スルノデアアル。ソノニツノ範疇、ニツノ方向トハ、即チ、一國若クハ數國ノ合力ニ因ル絕對的世界的超越權力ヲ背景トスルトコロノ集權的世界平和機構ノ方向ト、數個ノ大地域の政治團體間ノ協力ヲ基礎トスルトコロノ分權的世界平和機構ノ方向トガツレバアル。反樞軸側ヨリ出ヅル諸提案ハ、結局、第一ノ方向ヲ目指スモノデアリ、コレニ反シテ、樞軸側ノ意圖スル諸構想ハ畢竟、第二ノ方向ニ屬スルモノデアアルト概括シテ大ナル誤ハナイデアアラウ。

端的ニイフト、モシ、コノ戦争ガ、反樞軸側ノ勝利ニ終ルト假定スルナラバ戦後ニオイテ、英米又ハ英米蘇ノ合力ヲ背景トスル世界的普遍の平和機構ガ出現スルニ至ルデアラウシ、コレニ反シ、コノ戦争ガ、ソレラノ確信スルヤウニ樞軸側ノ大勝ニ歸スルナラバ、戦後ニオイテ、六ツノ大地域の政治團體ヲ基礎トスル分權の、世界平和機構ヲ實現セシムルニ至ルデアラウト考ヘラレルノデアアル。本研究ハ、反樞軸側ノ構想スル戦後平和機構ヲ念頭ニ置キツツ、ソレラガ戦後ニ實現ハンコトヲ期スル地域の或ニ世界の平和機構ニツイテ研究セントスルモノデアアル。

第二 大地域主義ニ據ル平和機構概説

樞軸側、特ニワガ國ノ提唱シツツアル世界新秩序ハイフマデモナク、大地域主義ニ基ク世界秩序デアアル。ソレハ英米蘇側ノ世界制覇主義、世界帝國主義ニ基ク、世界秩序ト全く異ナリ、全世界ニ數個ノ

大地域の政治團體ノ並存スルヲ承認シ、ソレヲ相互ノ親和ト協力トニヨリ世界平和ヲ確保セントスル新秩序デアル。コノ世界新秩序ハ從前ノ歐米帝國主義秩序ト異ナリ、マツ、世界ニオケル數個ノ大區域團體ノ自由獨立ヲ承認シ從ツテ、各大區域團體内ニ於ケル各國家ノ自主獨立ヲ承認シ、從前存シタル如キ或國家或民族ノ帝國主義的植民地性ヲ排除セントスルモノデアル。

コトニ大區域主義 (Grossraumprinzip, Konthentalismus) トハ、各個ノ大地域ニ定着スル各國家ハ、ソノ地縁的、血縁的、文化的並ニ歴史の連帶性ニ基キ、相集ツテ一大團結ヲ成シ進シテ政治的聯合ヲ結成シ、以テ、共同ノ生存、安全、福祉ニ發展ヲ計ラントスル主義原則乃至運動ニ外ナラス。

コノ大地域主義ニ從ヒ戰後ニオイテ世界ニ六個ノ大區域團體ガ結成セラレルモノト想定スルコトガ出來ヤツ。ソレハ、大東亞團體、回教團體、汎歐團體、「ソ」聯團體、英帝國團體並ニ汎米團體コレデアル。

各個ノ大區域團體ハソレゾレ地域の平和機構ヲ形成スベキデアル。

第三 大東亞ノ平和機構

(一) 大地域の政治機構概説

大地域の政治機構ノ形態ニツキ、従來次ノモノガ舉ゲラレ來ツタ。第一ハ聯邦國 (Bundesstaat, Federation) ノ形態デアリ、第二ハ聯邦 (Staatenbund, Confederation) ノ形態デアリ (聯盟ハ聯邦ノ一種ト見ル)、第三ハ聯合 (Union) ノ形態デアル。

凡ソ政治機構ノ形態ハ、當該政治社會ノ連帶性、團結性ノ程度ニ對應スルモノデナケレバナラス。大地域社會ノ團結性ハ、各民族社會乃至國民社會ノ團結性ノ如ク強度ナルヲ得ザルハ當然デアアル。

ラ、コレガ一ノ國家の形態ヲ取り得ザルハ明白デアラナラヤ。既ニ國家の形態ヲ採リ得ナイノデアルカラ、カノ歐米ノ論者 (R. W. Mackay, Clarence K. Streit, W. Ivar Jennings 等) ノ主張スル如キ聯邦國制ヲ採用シ得ザルハ多言ヲ要セナイデアラツ。

大地域團體ハ、世界構成ニオイテ、各個ノ國家ト一ツノ世界の國際團體トノ中間ニ位スル存在デアアルニ應ジテ、大地域團體ノ連帶性及團結性ハ、亦、右兩者ノ團結性ノ中間ニ存スルハ自然デアラネバナラス。世界の國際團體ハ後述スル如ク、一ツノ「ユニオン」ノ形態ヲ採ルベキデアルカラ、大地域團體ハ「ユニオン」ヨリモ強度ノ團結性アル形態ヲ取ラネバナラス。サレバ、大地域團體ハ何等カノ形ニオケル聯邦ノ體制ヲ取ルヲ以テ妥當トスルモノト考ヘル。

(二) 大東亞ノ政治機構

大東亞政治ノ指導の理念ハ、「道義ニ基ク共存共榮ノ原理」デアリ、ソノ基本原則ハ、各國家ガ自主獨立ノ權能ヲ享有スルト同時ニ、大東亞全體ノ利益及福祉ノ爲ニ互助、敦睦、スルノ責務ヲ有スルコトデアル。

コノ基本原則ニ基キ大東亞共榮團ハ次ノ如キ機構ヲ設クベキデアル。

- (イ) 中央行政機關
 - 構成 各加盟國ノ代表者各一名ヲ以テ構成シ、日本帝國代表者、常任議長トナル。
 - 權限 團内並ニ團外ニ涉ル重要ナル事項 (外交、財政、軍事等) ヲ協議、決定ス、又團内ノ國際紛争ニツキ調停ヲ行フコトヲ得。
- (ロ) 中央立法機關

- (ハ) 構成 各加盟國ノ代表者各數名ヨリ構成ス。
- 權限 一般國際法及大東亞國際法ニ關スル諸事項ヲ審議ス。
- 中央司法機關

- (ニ) 圏内ニオケル國際紛争ニツキ、裁判又ハ諮問の職能ヲ行フ。
- 機能的、技術的諸機關
- 經濟、資源、通商、交通運輸、文化交流、保健衛生、其他ニ關スル當設の又ハ臨時の諸機關ヲ含ム。

(ホ) 常設事務局

第四 世界の平和機構

- (一) 世界ノ各國ハ、一般國際法ニ基キ、世界國際團體ヲ形成セルモノト認メラルルヲ以テ、各世界ガ一個ノ聯合ヲ結成スベキハ當然ノ要請デアラオトナラヌ。シカシ世界社會ハ、ソノ連帶性及固結性ニオイテ、國家並ニ大地域團體ニ及バザルコト明白ナルヲ以テ、ソノ形態ハ聯邦制ヨリモヨリ「ルーズ」ナルモノゾナク「レバ」ナラス。「ジ」ネバ「國際聯盟ガ失敗シタル根本理由ノ一ハ、ソレガ實體的基礎ヲ缺ク空中樓閣タルニ過ギナクツタ點ニアルトイフベキデアル。來ルベキ世界の政治機構ハ聯盟機構ヨリモ更ニ「ルーズ」ナ聯合制デアルベキデアル。世界聯合ハ、從ツテ、世界の一般の同盟ノ性質ヲ有セズ、タダ世界の一般の協商ノ性格ヲ有スベキデアル。

世界聯合ハ「ジ」ネバ「國際聯盟」加テ、平等ナル各國家ヲ構成員トスルモノゾナク、各個ノ大地域團體ヲ直接ノ構成員トスルモノデアアル。大地域團體内ノ各國家ハ、タダ間接的ニ構成員タルモノト

認ムベキデアル。

- (二) 世界聯合ハ、各大地域團體ノ自主獨立ヲ認メソノ相互間ノ親善ト協力トニヨリ世界平和ノ確保ト世界文化並ニ世界福祉ノ進展ニ寄與スルニアル。

- (イ) 右ノ基本原則ニ基キ世界聯合ハ次ノ如キ諸機構ヲ設クベキデアル。

- (イ) 世界國際會議
- 開催時期 不定期

構成 各國家ノ代表者ヨリ構成ス。

權限 一般國際法其他世界の性質ヲ有スル諸事項ヲ審議ス。

手續 全員一致ノ原則ニヨル。

- (ロ) 理事會

開催時期 三年ニ一回又ハ臨時ニ開ク。

構成 各大地域團體ノ指導國代表者及ソノ小國代表若干名ヨリ構成ス。

權限 世界的性質ノ政治行政ニ關スル諸事項ヲ協議シ、大地域間ノ紛争ヲ調停ス。

手續 原則トシテ全員一致ノ原則ニヨル。

- (ハ) 世界裁判所

海牙當設仲裁裁判所又ハ當設國際司法裁判ヲ改組シテコレニ充ツルヲ得ベキデアル。

開廷時期

構成

權限 嚴ニ法律的紛争ニ限ルモノトス。

手續

(二) 機能的技術的機關

經濟、金融、資源、交通、文化、衛生等ニ關スル技術的專門的諸事項ヲ取扱フ。

(ホ) 常設事務局

(三) 世界聯合ノ權限ノ範圍及制限

(別紙乙號)

世界平和機構構試案

(昭十九、一、八)

一、世界聯合ハ「ジ・ネーション」國際聯盟ノ如ク平等ナル各國家ヲ構成員トスルモノニ非ズシテ各個ノ大
地域團體ヲ直接ニ構成員トスルモノナリ。從テ大地域内ノ各國家ハ單ニ間接的ニ構成員タルニ止マ
ルモノト認ムベキナリ。

二、右ノ建前ヲ承認スルモノトセバ世界聯合ノ機關ハ各國家代表ヲ以テ構成セラルベキモノニ非ズシ
テ各地域ヨリノ代表ヲ以テ構成セラルベキナリ。

三、從テ世界聯合ノ組織ハ左ノ如キモノトス。

(一) 總會

開催時期 毎年一回

構成

各地域ヨリ選任セラレタル夫々二名ノ代表ヲ以テ構成ス。右三名ハ國籍ヲ異ニスルモ
差支ナキコト勿論ナリ。又豫メ三名ノ中ヨリ首席代表ヲ定メ置キ、事項ニ依リテハ首
席代表ノミノ會議ニ於テ決定スルコトヲ得ルモノトス。

權限

世界平和維持ニ關スル事項、地域間ノ政治的紛争ノ調停、後述地域專門會議ノ決定事
項ノ承認、其ノ他世界的性質ヲ有スル事項ヲ審議ス。

手續 全員一致ノ原則ニ依ル。(首席代表會議ノ際ハ其ノ全員一致)。

(二) 専門家會議

法律、金融、貿易、資源、交通、文化、衛生等ニ關スル技術的專門事項ヲ取扱フモノニシテ夫々

各地域ヨリ選出セラレタル専門家ヲ以テ構成ス。開催ハ夫々年一回乃至二回。

専門家會議ノ決定事項ハ地域代表會議ノ承認ヲ經テ確定スルモノトス。

(三) 常設事務局

前記(一)及(二)ノ會議ニ關スル事務ヲ處理ス。

(四) 世界裁判所

各地域ヨリ選任セラレタル夫々二名乃至三名宛ノ裁判官ヲ以テ構成シ、其ノ權限ハ嚴ニ法律的紛
争ニ限ルモノトス。

(別紙丙號)

(世界機構案)

(長岡委員)

一、國際會議

各自主要國代表者ノ召集スル開卓會議ニシテ、定時會議、毎年一回各國主要國都市ニ於テ輪番ニ之ヲ開ク。

緊急召集ノ必要生シタル場合ニハ臨時會合スヘク、召集地ハ臨時之ヲ決定ス。

國際會議ハ其ノ必要ト認メタル各般ノ事項ニ付檢討シ、協議整ヒタル諸件ハ各國ニ於テ忠實ニ之カ實行ヲ期スヘキモノトス。

國際會議ノ爲常設事務局ヲ設カス、次期定時會議ノ協議事項ハ召集豫定國ニ於テ各國主要國ノ任命スル諸員ト共ニ之ヲ講究シ、開會四個月以前ニ之ヲ各國主要國ニ配布ス、但各國主要國ノ請求ニ依リ其ノ以後ニ於テモ議題ノ追加ヲ爲スヲ妨ケス、各國主要國ハ會議ニ於テ新議題ヲ提出スルノ自由アルモ、他ノ主要國檢討ノ用意整ハサル場合ニハ、緊急已ヲ得サル以外之ヲ次期ノ會議ニ譲ルヘキモノトス。

二、専門家會議

國際會議ハ機能的又ハ技術的諸問題ニ關スル涉國事項討究ノ爲、常設又ハ臨時ノ機關ヲ設クルコトヲ得。

右機關ハ問題ニ重要利害ヲ有スル諸國ノ専門家ヲ以テ構成セラルヘク、常設機關ノ爲事務局ヲ常設スルヲ妨ケス。

三、萬國會談

専門機關ノ作成セル諸案ハ國際會議ノ議ヲ經テ確定セラルヘシ。

國際會議ハ世界の性質ヲ有スル諸問題審議ノ爲世界各國ヲ網羅スル萬國會談ヲ招請スルコトヲ得。

萬國會談ノ作成セル諸條約ハ各國主要國ノ批准ニ依リ實施セラルヘシ。參列各國ハ條約ノ條項ニ對シ留保ヲ附スルコトヲ得。

四、國際平和機構

國際會議ハ各般ノ涉國紛爭ヲ平和的ニ解決スル爲居仲調停ヲ爲スコトヲ得。

非政治的涉國紛爭ニシテ通常ノ外交手續ニ依リ解決セラレシ且紛爭原因所在國ノ平和的解決機構ノ決定ニ對シテモ不服ナル紛爭當事國ハ、之ヲ國際平和機構ニ附託センコトヲ國際會議ニ申出ツルコトヲ得。

國際會議ハ右ノ紛爭ヲ會議自體ニ於テ處理解決スヘキヤ又ハ之ヲ國際平和機構ニ附託スヘキヤヲ決定ス。

國際會議ニ於テ國際平和機構附託ニ決スル場合、紛爭當事國ノ他方ハ之ニ反對スルコトヲ得サルモノトス。

國際平和機構ハ各事件ニ付紛爭ノ各當事國ノ指名スル一名ノ代表員及國際會議カ紛爭ニ關係ナキ國ニ所屬シ且事件ヲ處理スルニ堪能ナリト認メテ選定スル中立員一名乃至三名ヲ以テ之ヲ構成ス。

國際平和機構ハ紛爭ノ性質ニ應ジテ其ノ解決ヲ容易ナラシメ得ヘキ手續及方式ヲ定メ、之ヲ基準トシテ紛爭ノ解決ヲ期ス。

國際平和機構ノ諸決議ハ總テ多數決ニ依ル。

國際平和機構ノ決定ハ國際會議ノ議ヲ經テ確定ス。紛爭當事國ノ所屬スル國ノ主要國ハ紛爭國ヲシ

ヲ右決定ヲ忠實ニ實行セシムル爲最善ヲ盡スヘキモノトス。

(別紙丁號)

(大東亞内ニ於ケル紛争ノ平和的解決ニ關スル共同宣言案)

(長岡委員)

大東亞各國ハ昭和十八年十一月六日東京ニ於テ採擇セル共同宣言ノ精神ニ則リ、各國間ニ生スルコトアルヘキ紛争ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハスニ於テ平和的解決ヲ如何ナル場合ニ於テモ平和的手段ノ外ニ求メザサルヘキコトヲ茲ニ聲明シ、之カ實踐ノ爲左ノ決議ヲ爲ス。

- 一、大東亞各國ハ共同宣言ニ掲ケラレタル要綱ノ圓滑ナル運用ヲ期スル爲、毎年一回各政府ノ主席——主席事故アルトキハ外務大臣——東京ニ參集シ、隨意ナキ意見ノ交換ヲ行フヘシ。緊急參集ノ必要生シタル場合ニハ臨時會合ニシテ、參集地ハ臨時決定セラルヘシ。
- 二、大東亞各國間ニ生シ且通常ノ外交手續ニ依リ相當期間内ニ解決セラレ得ザルコトアルヘキ一切ノ紛争ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス調停其ノ他ノ平和的手段ニ依リテ解決セラルヘシ。
- 三、平和的解決ニ關スル諸制度及機能ノ又ハ技術的諸問題ノ研究ニ關スル諸施設ノ立案ハ大東亞建設事務局ニ於テ之ヲ爲ス。事務局ハ東京ニ常置シ大東亞各國ノ任命スル諸員ヲ以テ之ヲ構成ス。事務局ノ作成スル諸案ハ大東亞評議員會ノ議ヲ經テ確定セラルヘク、評議員會ハ大日本帝國ノ外務大臣及大日本帝國ニ駐劄スル大東亞各國ノ大使ヲ以テ之ヲ構成ス。

(別紙戊號)

平和機構綱領試案

昭和十九年一月十六日

山川 端夫

第一、大東亞機構

- 一、大東亞共榮圈ノ建設及協力ヲ強化増進スル爲必要ナル重要事項ニ付テハ豫メ日本國ト圈内諸國トノ間ニ夫々協定スルノ途ヲ講スルコト
- 二、大東亞共通事項ヲ處理スル爲左ノ機構ヲ設クルコト
 - (イ) 大東亞會議ノ設置
 - 大東亞會議ハ定期ニ會同シ共通スル重要事項ニ關スル共同措置ニ付テ審議スルコト
 - (ロ) 專門委員會ノ設置
 - 必要ニ應ジ各種ノ技術的專門委員會ヲ設クルコト
 - (ハ) 常設事務局ノ設置
 - 常設事務局ハ日本國外務大臣ヲ議長トシ參加國東京駐劄使臣ヲ以テ之ヲ構成シ之ヲ東京ニ置クコト
- 三、大東亞諸國間ノ紛争ハ必ず平和的手段ヲ以テ之ヲ解決スルノ主義ヲ承認スルコト
- 右紛争ニシテ關係國間ニ解決スルヲ得ザルトキ又ハ圈内ノ平和ニ影響ヲ及ボスノ虞アルトキハ日本國ニ於テ之カ紛争調停ノ責ニ當ルコト
- 四、圈内諸國ノ一トシテ國外國トノ間ノ紛争ニシテ外交手段ニ依リ解決スルヲ得ザル場合ニ於テハ當該圈内國ハ之ヲ大東亞會議ニ通報シ大東亞會議ニ於テ其ノ處理方ニ付キ豫メ協議決定スルコト

- 一、世界各地域ニ於テ主要國ヲ中心トシ數箇ノ Regional Group ヲ設ケ第一次ニ各地域ニ關スル事項ヲ協議處理セシムルノ制ヲ定ムルコト
- 二、世界全體ニ亘ル事項ヲ處理スル爲左ノ機構ヲ設クルコト
 - (イ) 最高會議(假稱)ノ設置
最高會議ハ世界主要國ヲ以テ組織シ世界平和維持ニ關スル事項、地域間ノ政治的紛争及主要國ヨリ提起セラレタル各國間ノ政治的紛争ノ處理、其他重要ナル事項ヲ審議解決スルコト、會議ノ裁決方法ハ全會一致ニ依ルコト
 - (ロ) 國際會議(假稱)ノ設置
定期ニ世界各國ヲ會同シ共通問題ヲ審議スルコト
會議ノ表決方法ハ主要國ノ一致ヲ含ム多數決ニ依ルコト
 - (ハ) 專門委員會
最高會議又ハ國際會議ニ於テ必要ニ應ジ專門委員會ヲ組織シ各種ノ技術的專門事項ニ付テ審議シ意見ヲ具申セシムルコト
 - (ニ) 常設事務局ヲ設クルコト
事務局ハ各主要國ヨリ選出セル理事ヲ以テ構成シ各理事ハ輪番ニ理事長ノ職ニ當ル
- 五、國際紛争ノ處理
 - (イ) 國際紛争ハ必ス平和的手段ヲ以テ之ヲ解決スルノ主義ヲ承認スルコト

(ロ) 地域間ノ紛争ニ付テハ問題ノ性質ニ應ジ之ヲ最高會議又ハ國際司法裁判所ニ提出シテ之カ圓滿解決ニ務ムルコト

(ハ) 地域内ノ諸國間ノ紛争ニ付テハ調停其他各地域ニ於テ豫メ協定シタル平和的處理手續ニ依ルヲ得ルコト

(ニ) 地域ヲ異ニスル各國間ノ紛争ニ付テハ平和的處理實施ニ當リテ當該紛争國ト共ニ關係主要國ノ參加ヲ認ムルコト

(ホ) 地域内ノ諸國間ノ紛争ニ付テモ豫メ同地域諸國間ニ協定アル場合ニハ主要國ニ於テ問題ノ性質ニ應ジ之ヲ最高會議又ハ國際司法裁判所ニ提出スルヲ得ルコト

(ハ) 現ニ各國間ニ締結セラレタル仲裁裁判ノ制度ハ存續スルコト

四、國際司法裁判所(假稱)ノ設置
國際司法裁判所ハ主要國ノ任命スル理事ヲ以テ構成シ地域間ノ紛争及主要國ヨリ提起セラレタル各國間ノ紛争ニシテ純法律問題ニ關スルモノニ對スル裁判最最高會議又ハ國際會議ヨリ諮問セル法律問題ニ對スル意見具申ヲ掌ルコト

紛争國ニシテ關係係争事件ノ裁判ニ當リ自國ノ任命セル理事ヲ有セザルトキハ該事件ニ關スル限リ自國ヨリ理事ヲ任命スルヲ得ルコト
裁判所ノ表決方法ハ多數決ニ依ルコト

平和機構綱要案

昭和十九年三月
特別問題委員會

第一 大東亞機構

(一) 方針

- 一、大東亞共榮圈ノ建設及協力ヲ強化増進スル爲必要ナル重要事項ニ付テハ豫メ日本國ト國內諸國トノ間ニ夫々協定スルノ途ヲ講スルコト
- 二、大東亞會議ニ於テハ漸進主義ニ依リ時頭ヨリ複雜困難ナル問題ヲ討議スルコトヲ避ケ成ルヘク一般ノ共通問題ヲ審議スルコトトシ以テ漸ヲ追フテ共榮圈ノ連帶性及協力ヲ増進スルノ方針ヲ執ルコト

(二) 機構

- 一、大東亞共通事項ヲ處理スル爲左ノ機構ヲ設クルコト
 - (イ) 大東亞會議ノ設置
 - 大東亞會議ハ國內諸國ノ總理大臣又ハ外務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ日本國委員ヲ以テ議長トシ共通スル重要問題ニ關スル共同措置ニ付テ審議スルコト
 - 大東亞會議ハ毎年一回定期ニ、又必要アルトキハ臨時ニ東京ニ於テ開催ス但シ議長ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ他ノ場所ニ於テ開クヲ得ルコト
 - (ロ) 専門委員會ノ設置

- (ハ) 必要ニ應ジ各種ノ技術ノ専門委員會ヲ設クルコト
- 大東亞評議會及常設事務局ノ設置

大東亞會議及各種委員會ニ關スル事務ヲ統轄スル爲大東亞評議會(假稱)ヲ設クコト
 評議會ハ日本國外務大臣ヲ議長トシ國內諸國ノ東京駐劄使臣ヲ以テ之ヲ構成スルコト
 常設事務局ハ之ヲ東京ニ置キ事務總長ハ日本國之ヲ任命シ事務局員ハ別ニ協定スル所ニ依リ國內諸國ノ任命スル者ヲ以テ之ニ充ツルコト

事務局ノ定員ハ成ルヘク之ヲ少數ニ止メ評議會ノ命ヲ受ケ諸會議ニ關スル事務執行ニ當ルコト

(三) 紛争ノ處理

- 一、大東亞諸國間ノ紛争ハ必ス平和的手段ヲ以テ之ヲ解決スルノ主義ヲ承認スルコト
- 二、紛争解決ノ手段トシテハ調停、仲裁裁判又ハ司法的解決ノ手續ニ依ルヘキコト
- 三、紛争ニシテ關係國間ニ於テ相當ノ期間内ニ解決ヲ得ズ國內ノ平和ニ影響ヲ及ボスノ虞アリト認ムルトキハ日本國ハ關係國ニ對シテ調停又ハ仲裁裁判ニ付託スヘキコトヲ勧誘シ又ハ場合ニ依リ自カラ進メテ之ヲ調停ノ責ニ當ルヲ得ルコト
- 四、紛争力當事國ノ一方ノ國內法令ニ依リ其ノ國內裁判所ノ權限ニ屬スル問題ニ關スルトキハ該當事國ハ權限アル國內司法官憲ニ依リ相當ノ期間内ニ確定判決ノ爲サルル迄ハ之ヲ平和の處理手續ニ付託スルコトヲ留保スルヲ得ルコト
- 五、國內關係國ニ於テ紛争ヲ調停委員會又ハ仲裁裁判所ニ付託スルトキハ右調停委員會又ハ仲裁裁判所ハ各紛争當事國カ自國人中ヨリ指名シタル調停委員一名又ハ仲裁裁判官一名及當事國ノ合意ニ依

リ國內ノ第三國人中ヨリ指名シタル調停委員一名又ハ仲裁裁判官一名ヲ以テ之ヲ構成スルコト

六、司法的解決ノ爲大東亞司法裁判所（假稱）ヲ設ケ之ヲ東京ニ置クコト

大東亞司法裁判所ハ當事國ノ合意ニ依リ提出セラレタル純法律問題ニ關スル紛争ニ對スル裁判及大東亞會議コリ諮問スル法律問題ニ對スル意見具申ヲ掌ルコト

裁判所ハ國內國カ各一名宛任命セル裁判官ヲ以テ構成スルコト

裁判断ノ表決方法ハ多數決トスルコト

七、紛争ニシテ調停又ハ仲裁裁判ニ依リ解決ヲ得ルニ至ラサルトキハ大東亞會議ニ於テ之ヲ處理解決スルコト

八、國內諸國ノ一ト國外國トノ間ノ紛争ニシテ外交手段ニ依リ解決スルヲ得ザル場合ニ於テハ當該國內國ハ之ヲ大東亞評議會議長ニ通報シ評議會議長ハ右紛争カ國內ノ安定確保、共同防衛其ノ他大東亞全體ニ關スル重要問題トシテ之ヲ處理スルヲ通常ナリト認メタルトキハ評議會ノ議ヲ經テ大東亞會議ノ招集ヲ求メ大東亞會議ニ於テ之カ處理方ニ付協議スルコト但シ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テハ評議會ニ於テ之ヲ協議スルヲ得ルコト

九、大東亞會議ハ紛争問題カ國內ノ安定確保、共同防衛其ノ他大東亞全體ニ亙ル重大問題ナリト認ムルトキ、之カ處理方法トシテ日本國ニ於テ當該國內紛争國ト共同シテ相手國外國トノ交渉ニ當ルヘキカ又ハ日本國ニ於テ一般手續ニ依ラス直ニ之ヲ最高會議ニ提出シテ其ノ解決ヲ計ルヘキカヲ決定スルコト

十、前號以外ノ場合ニ於テハ當該國內紛争國ハ調停其ノ他平和的手段ニ依リ紛争ノ決解ヲ計ルヘキコト

十一、大東亞諸國ニシテ新ニ平和的紛争解決ニ關スル協定ヲ爲サントスルトキハ前諸項ノ規定ニ遵由スヘキコト

第二世界機構

一、世界各地域ニ於テ主要國ヲ中心トシ數箇ノ Regional Group ヲ設ケ第一次ニ各其ノ地域ニ關スル事項ヲ協議處理セシムルノ制ヲ定ムルコト

二、世界全體ニ亙ル事項ヲ處理スル爲左ノ機構ヲ設ケルコト

(イ) 最高會議（假稱）ノ設置

最高會議ハ世界主要國ヲ以テ組織シ世界平和ニ影響スル事項其ノ他重要ナル事項ヲ審議解決スルコト

最高會議ハ定期ニ、又必要ニ應シ臨時ニ會同スルコト

會議ノ表決方法ハ全會一致ニ依ルコト

(ロ) 國際會議（假稱）ノ設置

國際會議ハ世界各國ヲ會同シ共通問題ヲ審議スルコト

國際會議ハ定期ニ、又必要ニ應シ臨時ニ會同スルコト

會議ノ表決方法ハ主要國ノ一致ヲ含ム多數決ニ依ルコト

(ハ) 専門委員會ノ設置

最高會議又ハ國際會議ハ必要ニ應シ専門委員會ヲ組織シ各種ノ技術的専門的事項ニ付テ審議シ意

(二) 常設事務局ノ設置

最高會議、國際會議及各種委員會ニ關スル事務ヲ取扱フ爲常設事務局ヲ設ケルコト
事務局ハ各主要國ヨリ任命セル理事ヲ以テ構成シ各理事ハ輪番ニ理事長ノ職ニ當ルコト

三、國際紛争ノ處理

(イ) 國際紛争ハ必ズ平和的手段ヲ以テ之ヲ解決スルノ主義ヲ承認スルコト

平和の處理方法トシテ豫メ調停仲裁裁判及司法の解決ノ手續ヲ協定スルコト

(ロ) 前項ノ平和の處理手續ニ於テハ一般手續ノ外ニ左ニ掲ケル主義ヲ承認スルコト

(A) 地域内ノ諸國間ノ紛争ニ付テハ各地域ニ於テ豫メ協定シ又ハ將來協定スヘキ平和の處理手續ニ依ルヘキコト

(B) 地域内ノ諸國間ノ紛争ニ付テモ豫メ同地域諸國間ニ協定アル場合ニ於テハ主要國ニ於テ直ニ之ヲ最高會議ニ提出シ之カ解決ヲ求ムルヲ得ルコト

(C) 地域ヲ異ニスル各國間ノ紛争ニ付テハ豫メ一地域諸國間ニ協定アル場合ニ於テハ右協定ニ基キ關係主要國ハ當該國內紛争同ト共同シテ相手國外トノ交渉ニ當ルコトヲ得ヘク又ハ關係主要國ハ一般手續ニ依ラス直ニ之ヲ最高會議ニ提出シテ其ノ解決ヲ計ルコトヲ得ヘキコト

(二) 紛争カ當事國ノ一方ノ國內法令ニ依リ其ノ國內裁判所ノ權限ニ屬スル問題ニ關スルトキハ該當事國ハ權限アル國內司法官憲ニ依リ相當ノ期間内ニ確定判決ノ爲サルル迄ハ之ヲ平和の處理手續ニ付託スルコトヲ留保スルヲ得ルコト

(*) 司法の解決ノ爲國際司法裁判所(假稱)ヲ設置スルコト

(A) 國際司法裁判所ハ當事國ノ合意ニ依リ提出セラレタル純法律問題ニ關スル紛争ニ對スル裁判及最高會議ヨリ諮問スル法律問題ニ對スル意見具申テ掌ルコト

各地域諸國間ニ豫メ法律の紛争問題ノ處理ニ付特別ノ協定アル場合ハ該協定ノ效力ヲ妨ケルコトナキコト

(B) 國際司法裁判所ハ主要國ノ任命スル裁判官ヲ以テ構成スルコト

(C) 紛争國ニシテ關係紛争事件ノ裁判ニ當リ自國ノ任命セル裁判官ヲ有セザルトキハ該事件ニ關スル限り自國ヨリ裁判官ヲ任命スルヲ得ルコト

(D) 裁判所ノ表決方法ハ多數決ニ依ルコト

(E) 將來各地域ニ地域の司法裁判所ノ成立ヲ見ルニ至ラハ國際司法裁判所ハ之ヲ上級審裁判所ト改組スルコトアルヘキコト

(別紙庚)

大東亞各國ノ防衛ニ關スル宣言試案 昭和十九年三月二十七日

大東亞各國ハ大東亞共同宣言ニ於テ相提携シテ其ノ自存自衛ヲ全クシ大東亞ヲ建設シ以テ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期シタルニ依リ左ノ通宣言ス

一、大東亞各國ハ直接又ハ間接ニ他ノ大東亞國ニ對抗スルカ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ

協定又ハ了解ヲ大東亞以外ノ國ト締結スルコトナカルヘシ

二、大東亞各國ノ獨立、領土保全又ハ完全ニ對シテ大東亞以外ノ國ニ依リ行ハルルコトアルヘキ侵害及脅威ハ總テノ大東亞諸國ニ對スル侵略行爲ト看做ナルヘシ

三、前項ニ掲クル侵略行爲カ行ハルルトキ又ハ侵略行爲カ行ハレントスルノ虞アルトキハ大東亞各國ハ直ニ相互ニ通報シテ右特殊事態ノ急ニ應スル爲執ルヘキ措置ヲ協定スヘシ

四、大東亞各國ハ事情ニ應ジテ第二項ニ掲クル侵略ノ場合ニ於ケル防衛ニ關スル協力及援助ニ付豫メ相互ニ又ハ共同シテ必要ナル實施細目ヲ協定スヘシ

附、一 條約局第二課事務分擔表 (昭和十八年十二月末現在)

課長 湯川盛夫

領事 福岡章

國際私法關係、文化協定實施事務

事務官 藤崎萬里

涉外法律事項、國際會議關係

國際法及涉外法制ノ研究及調査ニ關スル事項

事務官 中山賀博

涉外法律事項、國際行政事項(除著作權關係)

國際法及涉外法制ノ研究及調査ニ關スル事項

國際會議關係各種委員會事務輔佐

事務官(兼務) 須山達夫

著作權關係事務

副領事 一井秀男

司法共助關係、外國人關係法規編纂事務

涉外法律關係事務輔佐

國際法關係資料、第二次歐洲戰爭ニ於ケル各國法令集編纂事務

國際會議關係各種委員會事務輔佐

屬 片山博

文化協定實施關係事務輔佐

屬 小宮山寬

國際行政關係、赤十字關係、俘虜及抑留者關係

病院船關係事務輔佐

書記生 鈴木重恭

戰後問題調查事務輔佐

屬 木島貞夫

局長附、物品取扱主任、俸給總代

屬 杉井郁

國際法問題ノ研究

屬 一又正雄

國際法先例ノ研究

屬 植田捷雄

支那關係國際法問題研究

屬 大川幸平

著作權關係事務輔佐

屬 中川申一

阿片麻藥關係事務輔佐

屬 安田謙治

國際法關係資料編纂事務

屬 大兼慶子

國際法先例集編纂事務輔佐

屬 藤田昌孝

戶籍關係事務輔佐

屬 齋藤進

文書受付其ノ他一般事務輔佐

屬 內海雅子

國際法先例集編纂事務輔佐

屬 若林綾子

文書受付其ノ他一般事務輔佐

一、 條約局第二課職員異動表

一、昭和十八年一月四日

外務大臣秘書官附ヲ命ス

屬 關 興吉

雇 中村 健子

一、同年一月六日

事務官 中山 賀博

依願雇フ免ス

(寫學生) 齋藤 進

條約局第一課兼勤ヲ命ス

一、同年三月二十二日

外務書記官 齊藤輝宇良

依願免本官

外務書記生 西川 成之

外務省事務ヲ囑託ス

西川 成之

條約局第二課長兼務ヲ命ス

外務書記官 松平 康東

一、同年五月十三日

條約局第二課勤務ヲ命ス

一、同年六月十九日

囑託 立作太郎

外務事務官 高橋 通敏

任願職事

外務屬 一井 秀男

任大使館三等書記官

中華民國在勤ヲ命ス

馬瓦塞在勤ヲ命ス(條約局第二課勤務如故)

外務屬 河野 春吉

依願囑託ヲ解ク

囑託 古屋 千有

「ボルネオ」民政部附ヲ命ス

外務屬 河野 春吉

一、同年七月二十二日

外務省雇ヲ命ス

大衆 慶子

外務書記官 松平 康東

條約局第二課勤務ヲ命ス

一、同年七月二十四日

外務事務官 須山 達夫

條約局第二課長兼務ヲ免ス

一、同年十一月一日

外務省雇ヲ命ス

若林 綾子

條約局第一課勤務ヲ命ス

條約局第二課兼勤ヲ命ス

一、同年九月十日

任外務書記官

海軍司政官 湯川 盛夫

一、同年十二月三日

「ケーニヒスベルグ」在勤ヲ命ス

副領事 福岡 章

(條約局第二課勤務如故)

條約局第二課長ヲ命ス